

自治講習所自治寮日誌——昭和七年

〔表紙〕昭和七年一月廿日 自治寮日記 山形県自治講習所第十七期

朧月廿日 入所式 晴

乾坤一変して本所に新春を迎ふ。

午前五時半起床

静寂なる寮内を破り理想に燃ゆる青年の打ち出し太鼓は永遠の生命を永遠に

伝へ余韻は遠く又深し。悩める者を救ふ如く勇ましく起床の合図。

禊後一同部屋換へ、掃除分担係等の活躍

午前八時半朝食、新入生も次第に集合増加。

午前拾壹時、予定通り第拾七期生入所式、並に平康移住者拓殖講習会発会式が始める。

式

一、開式ノ辞、一、礼拝、一、君ヶ代奉唱、一、勅語捧読、一、所長ノ挨拶、一、長官訓示、一、来賓祝辞、一、新入生答辞、一、閉会

長官殿よりは優渥なる訓示を賜ふ。一同感激、県官吏、父兄方多数の光栄を得、盛大裡に式を閉ずる。時に午前四十分。

午後より所長先生並に赤間先生の一般に対する心得訓話等有り。皇国の重任ある寮内の人として最初の懐しき夢を結んだ事であらう。

所感

本日の入所式の新年に実にかへる点が多かつた。一体吾々は肉体が有つても其の根本たる確乎の精神が無かつたなれば、理想がなければ誠に心細い人間と云ひ得様。魂なき単なる人であつたら其れは肉塊偶像に過ぎないと思ふ。僕も其の一人とも思われるが、日本民族の理想信仰の教へは強く僕等の心を動かし、其の実習の形式は眠れる魂をゆり起し奮ひ立ち、理想に燃え信仰に生きる行軍も、今は只歓喜と感激とを以つて迎えるのみ。今こそ実に生甲斐ある日々かな。あゝ信仰無き生活は暗黒の夜を行く如く、理想なき追進はたゞ目的地なく行く小舟にも似たり。

靈的生活に立ち還つた僕の心身を益々鍛練陶冶して下されたのはそも誰か？ 尊敬する恩師と不断の切磋琢磨の心の友とがで無くて何んであらう……。東洋文明の美果を捧げての

…：盤根錯節解き難き世相を真善美化せん心を望むのみ。天晴れ、あな面白、あな手申し、あな明け、おけの心境が湧然と腹奥に湧き豊頬光り顔面輝く。これ即ち高天ヶ原の講習所たる所以でありませう。何事も善美化せんとするには常に己の心を善美化して置かなければならぬ。触れる物皆□然たるさやけき響を発す可き高潔なる人格を築くに万全の努力を捧げて天皇陛下をして弥々すめらみことたらしむべく健闘を要する秋である。

知事訓示にもある如く「我家興隆ノ負荷ニ堪ヘル所ノ人物ヲ涵養鍛成スルコトニ存スルノデ」と仰せられし如、熟く良く反省奮起すべき一句と存じます。此の一言を体して答へ奉らねばならぬと考へます。

◎今日なし得る事は明日に延すこと勿れ

紀元二千五百九十二年一月二十日

室ニテ 茂木

一月廿一日 木曜日 晴 当番 佐藤賢三

五時起床、道場にて点呼後各部屋掃除、五時半より全員掃除、終り後皇国運動、礼拝、朝食。前、所長先生の皇国精神と農業、后、船越先生の武道、六時寮歌練習、七時半より自習

所感

何時風引を引いたかわから私である。でも当番になつてみると気が気でない。二時頃に起きて又三時。又起きて見ると四時二十分である。三十分に禊をして、五時に力一ぱい太鼓のひびきが我が自治寮中をゆすり起した。又何時もより后は良出来であたが、風にまけ武道も出来ず、夜の七時半過ぎより部屋に来て休むと思つてねた。起きて見ると礼拝がすんだといわれ一日の当番を完全に出来なかつた事、残念に思つた。今後こんなことのない様にしかりやります。以上

一月廿二日 金曜日 晴 当番 奥山信義

五時起床、道場にて点呼後各部屋掃除、五時半より全員掃除、道場にて皇国運動をなし、礼拝、朝飯食す。

午前中は農事試験場の佐藤富十郎先生の稲作研究講演、午後は船越先生より武道教授、夕食後寮歌練習、後自習。

所感

私の最も痛切に感じたのは禊であります。非常に苦行なりとばかり想つて居りました

が、私も修養の一つだと自発的に真剣になつてやつて見ましたら何んでもありませんでした。精神一到何事か成らざらんとは真実に真理です。その時の愉快さと云ふたら筆で書くことや口で云ふことは到底出来ませんでした。亦初めて当番に当り満足にそれを成し遂げることが出来るか否、到つて幼稚な私にはそれが煩悶でした。今でも憂の一つです。以上

一月二十三日 土曜日 曇 阿部盛雄

午前、五時にて起床、道場にて点呼、六時甲班武道、乙班掃除、八時学科開始、十二時まで、后後一時半軍事教練後に講義。

所感

自分は自治講習所の生活で最も一番楽しいのは禊だ。これは当所の理想信念鍛練のために行ふ最大修養と考慮する。亦武道に於ても一生のかくべからざる事柄で何事をするにも武道誠心、亦植民後に於ても各人の話と話とので同としての、亦交際としても共同作にも自発的に務めるところの精神が肝要であると思ふ。以上

一月廿四日 日曜日 晴 当番 齋藤登

起床六時、六時半より全員掃除、後皇国運動、八時半より東澤村宝澤に緬羊見学、並に佐藤養鶏場見学。

所感

今朝は六時起床で皆は喜んで前日の夜は眠た様だった。自分も其の中一人で喜んで然し緬羊見学とは少し予算がくるつたが、緬羊や養鶏場を見学して室内で本を見てるよりはるかに大なる参考になつたと思ふ。以上

一月廿五日 月曜日 晴 星與衛

五時起床、道場にて点呼、五時半乙班武道甲班掃除、六時半皇国運動、七時半礼拝後朝飯、八時より昼迄所長先生の皇国運動の話、十二時内務部長の參觀、十二時半迄皇国運動をする。一時半江波先生の衛生講話、六時半夕食、七時より自習。

所感

衛生の方にはあまり心を入れていなかった僕はいつでも体の弱いのに困つた。江波先生の御話聞いて衛生を旨として体を練り、諸先生方の教によつて精神を練り光りある

本所の名を益々高めたいと思ふ。

一月二十六日 火曜日 晴 管運五郎

産業組合主事先生のお話、午前中午後長期生軍事教練、短期生武道、午後七時より自習。

所感

省り見れば間近き昨今、私共自治寮に身を処して幾日を送つたでしようか。懐しき父母上の膝下より一度志を決して、より良き皇国良民となる為に修行する樂さは日の流れを忘れさす。故郷の夕暮れを忘れさす。私は寮生中の若者で寮の分担たる当番と成り、愚言を記します。私は当番の文字すらどう解釈したら良いか知りませんが、昨年の農場生活より得たる力と新しき意志とを思ひ、良く持にぎり一日の業務を尽したと思ひます。以上

一月廿七日 水曜日 晴 西田貞典

午前中安斉先生の講話、午後所長先生の講話、夕食後自由、武道練習であつた。

所感

所長先生の皇国運動精神統一に予つて、尚一層皇国運動の興味を覚へた。諸先生方の講話中にて各人皆注意して騒がざる様にされたいと思ふ。以上

一月廿八日 木曜日 晴 黒田五郎

午前五時起床の合図に太鼓を打つた。午前五時半より甲乙班全部掃除、午前六時半より皇国運動、午前七時礼拝後過ぐ朝食、午前八時に集合して八時半に出発して陸軍墓地に参拝後聯隊に行つて黒溝台模擬演習見学、十一時半に帰つて来た。午後一時半山田先生の講話、午後四時に終つて自由、午後六時夕食後自習。

所感

朝四時二十分に起て禊をしようと思つたが、身体の具合悪き為に休んだ事は更に残念だつた。陸軍墓地に参拝、弥栄を三唱して聯隊に行つて黒溝台の模擬演習を見て、我々の先ばいが如何に苦戦奮闘活躍した事が、我が眠れる魂を奮ひ起しました。自治講習所全生徒もあの魂、弥栄理想を立て鍛練して修養を重ねたら、軍隊精神以上に發揮する事は確實で有ると思ふ。以上

壹月廿九日 金曜日 菅野章

午前五時起床合図の太鼓を打つ。午前五時半集合のあいず法螺貝をふく。すぐ事務室所長室の掃事〔除〕、所長先生外に週番の人にてつだいをうく。午前六時半道場集合の買〔貝〕、後両玄関の掃事、午前七時講堂集合の太鼓を打ち勅語捧読弥栄天晴をなす。後朝食をうく。午前八時半より試験場の佐藤先生の稲作に付きの講義をうく。正午中食をうけ午後一時より佐藤先生の講義、四時より武道の買（自由）後、佐竹さんの家に卵配達す。午後五時半夕食をうく。得〔特〕に今ばんはさかなをちようだいなす。午後七時より移民者の送別会を行ふ。午後十一時礼拝を行いて一同床に付く。

所感

いまだ一度も行ふた事のなき行事を午前の五時より午後の十一時までどうか出来る事の出来る事を何のよろこびです。常日頃におきて御おして下さる事の事実を一□一□やりうる事の出来る此の講習所生活、思い思いの理想にむかいて進む諸君と共にまなび行事の出来した事、何事もやる気で行へば出来しぬ事はない事の事実においてしる事が出来むた事とよろこびとします。無に此の百姓魂をしつかりと足の先きより頭の先まで□□□で故郷に帰□たる時は今の精神□発展致し農村開拓に尽すかくごです。又今此に朝鮮に行かるゝ先ばい方のお話をうけたはりても内地をはなれ国家のけんせつは死を以つて活動するとの□の□ごみを身に□、我れ等長男は□□□のここで此の土地をおこたらず、□□よとの心にたいしても此の重大なる農村開拓につとめま

一月三十日 金曜日〔土曜日〕 晴雲 古瀬吉蔵

起床五時、午前五時半より甲乙班に分れて甲班は武道で乙班は全部掃除、午前六時半より皇国運動。午前七時は礼拝後七時二拾分に朝飯。午前八時には玄関に集合し山形屠殺場見学、広瀬獣医より説明を聞き、午前十時半自治寮につきました。

午前十一時から所長先生に講堂で移民の御話がありました。午後〇時半に昼食、午後三時より一時半所長先生の講堂にて御話、午後五時半より晩食。

所感書きます。

入所以来私は初ての事務室当番は私の精神によかつた。なぜかと申しますれば自己自視を統一して勅語の御読が自分で解つた。且又私は当番を恐れていたのですが、自

実行つて見るとわけない事である事を感じた。所長先生の訓言に精神から反省し且又自治生活の内容が今になってわかりました。

一月三十一日 日曜日 阿部義雄

起床五時ト思ツタガ日曜日デアル故ニ、六時寮友諸君ハ思ヒ思ヒノ散歩ニ□□シ寮ハガラントル様ダツタ。五時半ノ夕食ニハ大分帰寮シタ様デアツタ。七時自習点呼。九時礼拝、就床。異常ナシ。

所感

年々ニ花ハ相似タレド、トシトシ二人ハ同ジカラズ。今日カレテ明日アリトテ恃ムベカラズ。今日ノ日ノウウチヲ日々ニオシムベシ。以上

〔以下黒ペン〕二月一日 月曜日

起床四時二十分起キ禊ヲシテ、五時ニ起床合図ヲシ、五時ニ人員点呼シ、五時三十分ニ甲乙班にワケテ甲班ハ武道乙班ハ掃除に着手シ、六時三十分ヨリ皇国運動、七時ニ終リ七時十分ニ礼拝シ、七時三十五分ニ朝食、九時ヨリ西垣所長先生ノ読書□□ノ講儀並ヒに委員選挙ヲシ〇時十五分ニ昼食、午後二時ヨリ船越先生ノ武道、五時三十分ニ終リ五時二十分夜食、七時寮歌練習、八時ニ終リ自習ヲシテ九時ニ休ミマシタ。

所感

入所以来恐れていた事務室当番は九時終りました。して見れば、まだして見たい様な気が致します。でも朝の礼拝ノ勅語をまちがへたのは何よりも悪るかつたと思つて居ます。今後気をつけて読む様練習致します。始めてであるからと思つて居ます。又午後七時ヨリ頭が悪くて本当に気持が悪るかつた。いづれも皆んな始であるからであらう。以上終り。〔黒ペンはここまで〕

〔上部に赤インキで「インキで書くべからず。墨で書くべし。」とある。〕

二月一日 月曜日 安孫子久〔同一人が再記入したものらしい。〕

起床五時道場ニテ点呼、六時半ニ朝食、八時四十分ヨリ学科開始、〇時半ニ昼食、午後二時ヨリ武道、六時二十分夜食、七時ヨリ寮歌練習、八時ニ終リ九時ニ礼拝後休ミ。私の恐テ居タ事務室当番ハ終りました。でも朝の礼拝の時勅語をまちがへたのは何ニヨリもくやしかつた。又七時ヨリ頭がいたくて気持が悪かつた。皆んな始であるか

らでせう。今後まちがへの口へ様に練習を致します。以上、終り。

二月二日 火曜日 午前晴 午后曇寒風 当番者 武田元衛

四時半に床を跳ね起きて直ちに禊をやり、五時を打つ時計の音を待つて勇氣に燃え立つ腹わたを締め起床の合図の太鼓を満心込めて打つた。道場にて点呼。五時半甲乙班に分れて甲班武道、乙班掃除、六時半より皇国運動。七時礼拝、直後朝飯。八時半より十時迄所長先生の読書のお話。十時二〇分より正午迄舟越先生の習字。午後一時半より五時迄教練（各個教練及び伝令）中工校庭にて。赤間先生より。

五時半夕飯、七時より八時迄自習時間、八時より八時五〇分迄寮歌練習、九時太鼓合図で礼拝、礼拝すむと事務室を片付け就床。

所感

生活変化に際しては禊以外にも苦痛とする事は無い。禊は始めて二三日中だけが非常に苦痛にして居たが、現在に於ては日に三度三度口に運ぶ飯より容易に出来る様になつた。なに事もやれば出来得ぬ事はない精神一つだ。

二月三日 水曜日 午前雪、午后雪 当番者 金澤嘉代治

五時起床、道場にて点呼後禊を行ひ各部屋掃除。五時半より甲乙班に分れて乙班武道甲班掃除。六時半皇国運動。七時礼拝、七時二十分朝食、八時半より九時二十分迄金井村五十嵐先生の金井村一般の講話。十一時より山形高等学校安斉先生の地質学、正午食事、一時より三時半迄山形図書館長大沼先生の満州事変と読書の傾向の講演。三時半より四時半迄全員大掃除。六時夕食、六時より九時迄自習時間。九時礼拝。

所感

朝四時起床して禊を行ふことゝ思つたが、自分の不注意から生じたる感冒の爲めにしないのは実に遺憾に堪へない。私が入所以来二三日の後に禊の後よく身体をふかないのから感冒となり臥床致した際に、所長先生始め諸先生方には自分の息子や兄弟の様に思ひ手厚い看護を致し下されたことは、実に感激に堪へなかつた。今でも寸時も忘れては居りません。

二月四日 木曜日 雪 三浦又男

朝の行事何時もの通り。午前所長先生の弥栄講話、午後赤間先生の教練なり□□。

所感

今日は所長先生の熱心なる御講演、又赤間先生の元気な御指導を下され極めて痛快な日であつた。以上

二月五日 金曜日 晴 当番者 本田総一

本日ノ行事

午前五時万身ノカニテ起床ノ太鼓ヲ打ツ。五時半ヨリ甲乙二班ニ分レ武道掃除ヲ為ス。六時半ヨリ快活ナル皇国運動。七時礼拝、七時卅分頃朝食。八時半ヨリ正午迄弥栄ニツキ所長先生ヨリ講話。午後三時迄船越先生ヨリ武道教授、三時ヨリ五時迄柔剣道、六時廿分夕食、七時ヨリ自習時間、九時礼拝。

所感

午前四時半自ラソノ責任ノ感ジラレ目ガ覚メタ。直ニ襖場ニ走り冷水ヲ頭ヨリカムリシ時ハ、不純ナル総テノモノガ清洗セラレ実ニ壮快ダツタ。今日ノ自治寮生活ノ規則時間ハ総テ自分ノ責任ト思フト自ト緊張ガ感ジラレタ。事務室掃除ノ際ニ所長先生ガ真先トナツテ雑巾ヲ取ラレタノデ、自分ハ実ニ気がデナク、実ニマゴマゴサセラレタ。ソシテ心ヨリ掃除ヲ為ス。皇国運動ノ際ニ、精神ノ充実ヲカイテル事ニ付キ、所長先生ヨリ種々訓話の注意ヲ受ク。自分モハツト感ジラレタ一人ダツタ。明日ヨリ精神ニ於テ元気ニ於テ一変セン事ヲ固ク心ニ誓ツタ。寮歌君ヶ代勅語捧読、弥栄三唱ナド総テ意氣ト呼吸ガ大切デアル事ガ痛切ニ感ジラレタ。所長先生ノ海外植民ノ内面的ノ講話ニ、自分モ次男三男デアツタラト思ツタ。午後ヨリ気合ヲ道場一パイニ打込ミ練習、増々佳境ニ入ルヲ感ズ。以上

二月六日 土曜日 晴 当番者 清野本

本日ノ行事

午前五時万身ノカヲコメテ起床ノ太鼓ヲ打ツ。五時半ヨリ甲乙両班共ニ掃除ヲナス。六時半ニ鈴川村ノ神明神社ニ行キ皇国運動参拝シ、其ノ後招魂神社ニ参拝シテカヘリ、八時頃朝食ヲ戴ク。八時半頃ヨリ教練正午迄。午后ヨリ赤間先生ノ試験アリ二時半迄。六時半頃夕食、九時ニ礼拝。

所感

午前四時半ニ襖ヲ行フト自ラ自分ノ不注意ノ事ヲ思ツタ。僕ハ自治寮生活以来十数日

ナルガ天晴レノ心ガ無カツタ。今日ハ神前ニテ皇国運動ヲ行ツタ。其ノ後ハ天晴レノ心ガ真ニ思ワレタ。其ノ心ヲ持ツテ自治ノ名ヲアゲルト共ニ僕ノ心身ヲ鍛練シル覚悟デアル。

二月七日 日曜日 晴雪後晴 当番者 柴田敏夫

本日行事

午前六時起床、全六時半ヨリ全員掃除、全七時二十分皇国運動、午前七時五十分礼拝、全八時二十分、全十時頃ヨリ正午迄須藤さんと小野憲君と僕と三人でクリーム及びピントンを料理す。案外上手に出来ました。この有様ならば茶話会等では菓子買ふ必要更になし。

午後より武道やる者あり。静寂なる空気を破つて熱血燃ゆる若人の裂帛の気合、竹刀の音、これ等の音のみ、殊に高く寮内にひゞき渡る。客三名あり、所長先生を待つ。午後五時四十分夕食、全七時自習。八時頃船越先生と話をしてみた客帰る。船越先生も帰へられ須藤さん、茂木さん、長岡さん外出なされて事務室は僕一人。静かな室に聞えるもの、僕の鼻息とカツチカツチカツチ、時々椅子のキシる音、此等より外に何もなし。午後九時礼拝。

所感

午前三時目覚む。早いのでねむる。四時半頃又目が覚めた。まだ早い、又眠る。六時十五分前目覚む。あゝ少し遅かったぞ!!と思ひ直に禊を行ふ。室に帰つてふとんを片づける。時計が六時を打つ。上衣を取り廊下に出て小走りに太鼓の所へと来る。その途中ひゞき渡る太鼓の音、ドンドンドン。

茂木さんが打つて下さったのでした。事務室当番者として恐縮措く所を知らず。弥栄党に入り大和民族の理想信仰を弥々益々鍛練せんとしてゐる、否せねばならぬ自分が、その実習形式である事務室当番の真先にて、この有様とはたゞ慚愧の念に堪へず。今後失敗なき様に自分が自分自身をせめなければならぬ様な行為はないやうに努めん。朝の礼拝、天皇陛下弥栄、勅語奉読の時の気持、汗まで出たあの心持!! あの心持をうんと確り握つて一日の生活、一年の生活、一生の生活に実現して行くやうにせねばならぬと思ふ。以上

二月八日 月曜日 少雪雲 当番者 遠藤忠雄

本日举行事

午前五時起床、合図の太鼓を打つ。午前五時半担点呼、甲班武道乙班掃除、六時四十分より皇国運動。七時礼拝直後朝食、八時二拾分授業開始、赤間先生の衛生大意に就いて講話拾時四十分迄有り。拾一時より執銃教練有り。后一時半より執銃教練四時迄、後自習、后五時半夕食。七時に不時点呼後自習、九時点呼。

所感

小生入所して翌日炊事当番でしたが、一番に感じたのは先生並に先輩諸兄の親切なる事である。小生も先輩諸兄のやうになりたいと決心した。又二月五日皇国運動の時の御注意、実に有難く感じました。精神不充なる事が始めて気が付きました。今後は益々精神こめて皇国農民として皇国の為に陛下の御為に尽す決心で修業致します。以上

二月九日 火曜日 曇時々晴 当番者 舟山正悦

起床五時、太鼓の一音と共に自治寮総てが静けさを破られ、俄にそうぞうしくなつた。五時半担点呼、乙班武道甲班掃除。五時四十分より皇国運動所長先生指揮の元に、七時十分礼拝君が代弥栄三唱。八時半より正午まで所長先生より弥栄百十五号銃後の講話。壹時半より習字、筆の使い方等懇切に教授せらる。三時より五時まで石山先生が初めて見えられて剣道の根本精神及基本姿勢等教授せらる。五時廿分食事、七時より入浴、八時より九時まで寮歌練習有り、九時より点呼礼拝后。

所感

四時ふと目が覚めた。まだ早いと思ひ又ねむようとしたが、事務室当番と云ふ責任感からとても安楽にねむる事が出来ず、四時半むつくり起き上り襖をなす。水をかぶるしゆん間の心想は実に無我夢中と云程で、もうその後の気分の壮快なる事、かゝる様なる気分で万事にあつたなら総て心安いもので有らう。起床の太鼓は四十名を夢路は破られた。而し其の起床の太鼓は茂木先生が鳴らして下さつた。所長先生初め諸先生方手づから事務室掃除せらる。実に家庭的の感「観」念がひどく我が胸にしみた。まるで一家の父兄の如く親しく感ぜらる。そして注意して下る言葉及話し話して下さる事柄等、心の根元から感動せしめらる。朝の礼拝の時の弥栄の気分も襖の気分と同様だ。これを延長した気分になりたいもので有る。消灯后風呂の立つた時等時々大声にて寮歌をうたつたり、足音高く走るもの有り。つとめてなくしたいと思ふ。

二月十日 水曜日 晴 当番 武田正

起床午前五時、午前五時半分担保呼、七時日本体操、七時半礼拝、直後朝食、八時半ヨリ十時習字、十二時迄地質学（安斉先生）、午后三時迄習字、以後大掃除、自習、礼拝、以上。風呂あり入浴せり。

所感

天晴あな面白、あな手伸、あな明け、おけ。午前五時迄には稍掃除も終り、及ばづ乍ら天晴なる気分で一日の分担保を終了した考である。

二月十一日 紀元節 木曜日 晴 当番者 水沼保

午前六時起床、合図ノ太鼓ヲ打ツタ。午前六時半分担保呼行ヒ、甲班自習乙班掃除、午前七時皇国運動ノ合図ニ法螺貝ヲ吹ク。礼拝ヲ太鼓ニテ合図、続イテ式アリ。所長先生ノ紀元節ノ話シガアツタ。午前八時朝食其ノ後紀元節ニヨリ休ミ、午後七時自習合図ニ点呼ヲ行フ。午後九時礼拝ヲ行フ。以上
所感 ナシ。

二月十二日 金曜日 晴 金澤孫治

本日行事

午前五時起床合図の太鼓を打つ。午前五時半より集合して直に分担保呼を行ひ甲班武道乙班掃除。午前六時半より皇国運動、長岡君リーダーにて、午前七時十五分に礼拝、太鼓の合図にて、午前七時半頃から朝食。午前八時授業開始、東村山郡金井村長五十嵐先生の有意義なる金井村一覽表講習生に配付され、講話高橋先生農学大意。午後より又先生の農学柔剣道、五時に終業也。

所感

突然週番より命令受けて、明日は重大なる責任を持つ事務室と思つて、普通よりも緊張味が増して、自分が恋しき床に着きて何時しか夢を見、ふと目をさまして時計を見ると四時半、呼鳴と云ふ声で洗面場にかけて、第一歩は何事も禊にありと武道の精神で禊致し、太鼓を打ち、事務室へ行き須藤さんが親切指導下されました。我々は持「待」ちに持ちたる高橋先生は負傷にもかかわらず元気ある先生の顔を我々は始めて見まして、又我々に取つて大事なる御講話を下され自分の精神がもへ立ち、又我々

は一步一步向上の道をふみます。先生の講話にて自分は一層印象深く与へられました。

二月十三日 土曜日 曇 当番者 相田栄助

本日行事

午前五時起床ノ太鼓才打ツタ。午前五時半道場ニ集合、分担点呼ヲ行フ。甲班掃除乙班武道午前六時半ヨリ皇国運動、七時三十分礼拝、七時五十分朝食、午前八時二十分ヨリ高橋先生ノ農学大意十時マデ、十時二十分ヨリ十二時マデ赤間先生ノ軍事講話、午後一時半ヨリ五時マデ教練、夕食六時、午後九時礼拝。

所感

午前三時半一番ノ禊ヲ致シマシタ。今マデ四時半ニ起ル事ヲ決行シ来タガ、今朝三時ニ目覚テドウシテモ眠レマセンデシタ。此レ事務室当番デアルカラト思イマシタガ、無事諸先生方ノ御指導デ責任ヲ果シタ事、誠ニ感謝ニ堪マセン。私出来得ル限ノ目覚致シ勉強シ皇国農民ニナル覚悟デス。

二月十四日 日曜日 曇 当番者 佐藤廣弥

本日行事

午前六時起床人員点呼、全六時半ヨリ全員掃除、全七時半皇国運動、全八時礼拝、全八時式拾分朝食、午前拾壱時頃武道ヤル者アリ、午後ヨリ生徒諸君凡テ外出イタシ寮内静寂ナリ、全五時半夕食、全七時人員点呼、全七時半国防ノ歌練習、全九時礼拝。

所感

作〔昨〕晚礼拝の時、本田君より事務室当番佐藤廣弥君と呼ばれた時、僕はハツト思つた。事務室当番と云ふ大任を完全にやられるか否かや……それが心配なのである。床に就いてもなかなか眠られないけれど、いつのまにか知不〔知らず〕知不のうち眠つてしまった。ハツト思つて起きて見ると午前式時である。又眠ろうとしても目が冴へて眠れないけれど、又不知不知のうちに眠つてしまつて四時に目をさまし、それから眠られないので起床致し、今日の事務室当番無事にはたすやうにと心のうちに念じながら禊を行つた。礼拝の時勅語奉読する時の僕の汗、その時僕の真劍その精神、それを忘れずにこれから自治寮、否社会に出ても真劍に何事も致すつもりである。終り

二月十五日 月曜日 晴 当番者 小野憲
本日の行事

午前五時起床、午前五時半甲班武道乙班寮掃除、午前六時半皇国運動、〃 七時礼拝朝食、〃 八時半農学大意、十時半教練、午後二時小磯軍務局長閣下の講演を中学講堂できく、午後五時夕食、寮歌練習をやる。

所感

本年の勅題「鶏鳴告曉」の句は此の自分に取つて余りにも心に感じさせられる。静かに過去をふりかへる時、華かに人生のスタートラインについた自分の進路が果して正しかつたであらうか。華かなだが空虚な生活に育つた自分は何を此の人生から得やうとしたであらうか。しかしめざむべき時が来た！ 所長先生の講話は曉を告ぐる鶏の声其の物であつた。自分は今先生に師事する事が出来た。最後に自分過去の空虚な生活を完全に永遠の彼岸に投げ打ち、偉大なる大和民族の理想信仰に向つてあらゆる万難を排して猛進し、大和魂を腹のどん底にしつかりとつかみ込まう。尚一言したいのは自分の暗い心が今完全に明い心になり得た事である。此の心を持つて神に感謝しそして自己の分担を遂行しやうと考へてゐます。

二月十六日 火曜日 当番者 長谷部十右衛門
本日の行事

午前五時起床、午前五時半甲班掃除乙班武道、午前六時五十分皇国運動、〃 七時半礼拝朝食、〃 八時二十分より金井村研究、〃 十時より所長先生の講話、午後一時より習字、〃 三時半より寮内大掃除、〃 六時夕食、〃 七時より点呼自習。
所感 なし

二月拾七日 水曜日 当番 庄司定治郎
本日の行事

午前五時起床、一、午前五時半ヨリ乙班掃除ス甲班ハ武道ス。一、武道修ノホラカイヲ吹ク時ハ午前六時半。一、午前六時四十五分ヨリ皇国運動行フ。次ニ礼拝ス。一、朝食午前七時半デシタ。一、午前八時講道〔講堂〕集合ノカイヲ吹ク。一、第一項次〔校時〕高橋先生ノ農学大意ノ講義。一、第二項次安齊先生ノ地質学ノ講義。第三、四項次県庁山田先生ノ産業組合信用組合ニ関スル講義、一、午后五時半夕食。一午后

七時自習ノカイヲ吹ク。一、午后九時礼拝。〔傍線は原文通り〕
所感

自分ハ今朝或感動ニ依ツテ目ヲサマシタ。時ハ四時三十分デシタ。早速襖シテ事ム室ニ出タガ電灯ガ消テ居マシタ。須藤サンニ報告シ、暫シテ光明ナ事ム室ト成ル。時計ハ五時ヲ打ツ迄ニハ十五分バカリ有マシタノデ、新聞ヲ見テ居ツタ。何タル事ゾ。時計ノ長針ガ十一時ノ所ニ行ツタラ須藤先生ニ私ノ打ベキ太鼓ヲ打レシマツタノデス。アノ時ハ無限ノ苦デシタ。責任觀念ノ養成ニハ最大ナル好道ニ直感シマシタ。過シタ今日又来てシヨカ？ 事ム室当番ノ心得ヲ活用マシヨウ。本事業コソ参上シタト信ズル大イニヤラウ。

二月十八日 木曜日 雪降り 大沼清八

本日の行事

朝の行事は何時と同じ。午前八時半所長先生皇国精神ト農業。午前十時高橋先生農学大意。午后一時齋藤先生珠算、午后三時舟越先生武道、午后七時寮歌練習後自習。午后九時礼拝ス。

所感

昨夜私に取つては責任ある事務室当番を授けられて床に入る。責任の二字に左右されたのであらうか。時計は幾らも廻らぬのに幾度も幾度も目が覚めてならぬ。時刻は遠慮なく過ぎて行く。私は午前四時半に床を離れて襖に行く。外は昨日より吹雪と化して今なほ冷めたい風は身にしむ。私は何時も思ふ事は、皇国運動の後に寮歌を唄ふ時、何物もうち忘れ、そのみに気を取られ、朗らかに一同と供〔共〕に唄ふ時こそ天晴れな気分になれるのである。今日は当番として大神宮様の前にて勅語を捧読して天皇陛下の弥栄を三唱した。誠心を捧げてやつたのであるが、私は今だ人様の前や神様の前にて捧読を致したのは初めてである故か、多少はおつくであたかの様に思はれました。今後は恐れぬ様にやります空は乱れても吾等の心は輝くように。

二月十九日 金曜日 曇 当番者 相沢知二

午前五時起床人員点呼、五時半甲班武道乙班寮掃除、六時半皇国運動、七時礼拝朝食、八時ヨリ十時マデ農学大意、十時ヨリ十二時マデ稲作研究。

午后壹時ヨリ三時マデ稲作研究、三時ヨリ五時マデ武道（柔剣道）、七時ヨリ九時マデ

自習、九時礼拝。

所感

事務室当番ト云へバ、何人モソノ立場分担受持ト云フ点ヨリ、強イ責任感ニ打タレ緊張スル。僕トテモ同様デアリナガラ今日ノ第一歩タル起床ノ合図ニ、三浦君ノ助力ヲ受ケタトハ誠ニ残念デアリマシタ。特別ナル立場ニ於ケル時ノミノ緊張デナク、万事万端ニ対シ自己ヲ知り責任ヲ完全ニ遂行シタイモノデス。入所以来三十日ニシテ、イマダ朝ハ太鼓ガ鳴ツタ故ニ起キル。自習時間ナルガ故ニ漸ク本ヲ開ク。礼拝ノ何タルモノヲモ解セズ、二拝ニ拍手一拝ヲ単ニ講習所ノ日課ナル故、形式的ナル行動ヲ取ツテルガ如キ、自己ノヨリヨク反省シテ居マス。

二月二十日 土曜日 晴 当番 安食喜一

午前五時起床人員点呼、五時半甲班掃除乙班武道、六時半皇国運動、七時礼拝朝食、八時より十時まで農学大意、十時より十二時まで教練。午後一時より四時まで教練、九時礼拝就床。

所感

朝五時の起床合図は誰か五分程前に打ってくれた人が居ったので、僕はびつくりして時計を見たらまだ五分程前だった。ねむがつてる皆に気の毒だった。事務室当番たる僕の不注意からだ。去年から居った僕が今まで当番をのがれて居ったのも、何だか済まないやうな気がした。礼拝の時、今日こそは満州の新国家独立を祝したと共に、天皇陛下の弥栄を天地にとどろかせてくれんと思つてさけんだが、皇国運動の時あまりにも歌□高く歌つたせいか、思ふやうな声が出なかつたのが残念だった。今一日事務室当番をして一番感じたのは、先生方が大変お情け深くして下さつた事です。

二月二十一日 日曜日 晴 当番 森光男

午前六時起床、人員点呼、全六時半全員寮内掃除、全七時半皇国運動、全八時礼拝、全八時二十分朝食、午后七時人員点呼、午后九時礼拝就床。

所感

廿日の夜に週番より重大なる、並に喜しい事務室当番の任務を授られて、心良く床に付いた。そして気持良く寝た。朝の起床の時には自分の起きたのは五時半であつた。そして襖場に行き冷水をあびた。して帰つて六時に太鼓の合図をした。一同気持良く

点呼に出らしかつた。自分は午后より事務室に一人の時はしばしばだった。その時はストーブの火の音と時計の音、たまには自分のくしやみの取「ママ」が静な室を突くのでした。そしていつにも頭にあるのは人性觀の意気である。亦意気ある職掌也。それに基きて農村方面社会学を自習し居つた。亦諸先生方の御指導に、自分に感慨では満足に廿一日の事務室当番の責任を果たした思ひです。以上

二月二十二日 月曜日 当番者 高橋勇士

午前五時起床人員点呼、五時半甲班武道乙班掃除、六時半皇国運動、七時礼拝朝食、八時半より十時迄結婚式挙行、十時より十二時迄教練、十二時昼食。午后一時より五時迄教練（うち壺時間□□術）、五時半夕食、七時より九時迄自習、九時礼拝、就寝。今日午前八時半から講堂御神前に於て、私ら先輩佐藤大男兄の結婚式が挙げられました。生徒一同も此の喜ばしい式典に参列することが出来ました。今回佐藤さんには人目を羨む御世帯をお持ちになりました、雄々しく大和民族の大使命に向つて第一歩を進まれた理由であります。あつぱれ：おけの御心掛で行かれるのです。列席の私ら生徒一同の顔も今日は何んとなく晴れやかで、言ひ知れぬ喜びの笑顔の様子です。先生からウンと下腹に力を入れる修業をお習して居ますが、何んだか私でさえ嬉しい様な名状し難い心に打たれだいつと笑唇を嚙んで居りました。真にあなたのし「手伸し」の状でありました。幾ばかりか私ら生徒の心の奥に此のことが刻まれたことでせう。我らは謹んで前途を御祝申し上げます。

（所感）

入所以来最早や一ヶ月有余も過ぎました。真当に夢の様であります。重き使命の我らは毎日先生方より御教下下さる事は見るもの聞くもの五体に触るゝ総ては自発的の若人の血となり肉となり、やがては日益に大和魂は磨かれて、大生命に邁進しつゝあります。私などはほんとうに生れ甲斐のある様な気が□々として沸き出で彼方に光明の輝くを認めらる様です。一人の男子と生れ茲に二十有年、今年こそ何かしら言ひ知れぬ感激の胸に迫り来るのであります。若い者、即ち青年には青年の長所短所がありません。元氣旺盛意気昇天の勢を以つて何物も顧みず、彼方の光明えとめざして邁進することがあります。実に頼母しきは若人である。運あつて私もこの自治寮に生活することが出来た。去る日には斯くある一挿話が思ひ起さる。某教育者は自治寮の講演を聞いての批判の様なお話があつた。其れは「自治講習所なるものは海外発展策をモツト

―として居る様子である云々……、斯くして一度海外に発展して、若しも万一不成功に終つたら其の青年は故郷は何故に我として外に放つたであらうと生れ故郷を恨んでは、果ては社会をも呪ふであらう。斯して地方自治は破壊であると」のお話でありました。其の頃は私も思ふ事ありましたので、質問は止めにしました。が身は有力教育者として多数の生徒を前にして聞かせたのでした。若い者は感激性に満ちて居ります。……今となつては某氏教育者も自治講習所の本領を研め得ない方であつたかも知れません。（斯くいふ私もそうであつたかも知れません）と憶測するのです。いわずとも自発的の修養道場なのだ。思えば何んだか当時教育者某氏の事がはしなくも今更思ひ起こされます。……今や内外風雲急にして大和民族の使命は一刻もゆるがせにせざるべからざるの時、我ら地方選手として選抜せられ自発的に寮内よりも許され推されたのであつた。瞬時も惜しき短時期の修養、大和民族の大理想に邁進せなければならぬ。大いに努力の時だ。（事務室当番にも総選挙開票シーズンが ワザワゼン 患て後先のない感想となつた。）

〔以下、別人の手により〕高橋君ノ感想ハ実ニ妙ヲ得テ万点ナリ。唯乱筆ヲ遺憾トスルノミ。事務当番ハ本当ニ気持良ク働イテクレタコトヲ感謝スル。

二月廿三日 火曜日 当番者 小野功

午前五時起床人員点呼、五時半乙班武道甲班掃除、六時半より皇国運動、七時礼拝朝食、八時半より農学大意、一講時高橋先生、十時より二講時郷土史講話五十嵐先生、十二時中食。午后一時半より三時まで習字舟越先生、三時より五時頃に剣道石山先生、六時夕食、後風呂に四班より順に入る。七時より九時迄自習時間、九時礼拝就寝。

所感

今日は二月二十三日、茲に私し入所致したり、最初の事務室番が当り、朝は四時頃に目を醒まし、四時半頃より禊に出て行く。今だ禊をした跡もない。其内相澤君も禊に来ました。私し室に帰り読続の頁より読み初める。間もなく五時の音を聞き急いで行って太鼓を打ちました処、生徒一同道場集まる。この太鼓こそ、私達自治寮訓練生活の習慣を持つこそ、有意義な様に感ずる。又私し朝の皇国運動やる処に深く朝々らしい気分ある。又運動の出来た終りに寮歌をうたいつゝ行進するのにも心良く思ひ感じる。皇国運動終る。神様の戸を開け皆様に礼拝の太鼓を打ち、一同揃ひ神に向ひ手を拍ち礼拝す。君が代終へて私も勅語を読みました。□□の中の啓発と読む所でまごち

きます。天皇陛下弥栄の三晶〔唱〕を心の中より大きな声でとなへる。朝食後□時間
 終り、後は時務室に行き、先生方や助手の言ふ事の通り守り、夜の礼拝致し、今日の
 事務室当番を無事終ました。以上。

二月二十四日 水 曇り 当番者 犬飼訪吉

本日の行事

午前五時起床人員点呼、五時半武道掃除、六時四十分日本体操、七時二十分礼拝、八
 時半高橋先生の農学大意、十時二十分安齋教授の地質学、昼食、午後一時半山田先生
 の組合の御話、四時半大掃除、六時夕食、七時自習、八時寮歌練習、九時礼拝。

所感

昨夜週番より事務室当番を云渡され喜んで床に就く。今朝四時半に起き禊をし、部
 屋の掃除をして五時の鳴るのをまつて居りました。其のうち五時になつて合図しに行
 かうと思つて部屋を出た時に三浦君が太鼓を打つてくれました。三浦君に御礼を言ひ
 事務室に行き、今日こそは自分のすべての分担を完全遂行しようと思つて居りました
 が、生れて初めての仕事の事とて何をしてよいか少しもわからず、殊に自分は耳が少
 し遠いのと口の出し方が下手なので、所長先生初め諸先生に満足を与へる事の出来な
 かつたのが残念でしたが、又不完全を完全にする所に人生の意義が有ると言ひますか
 ら、日を追ふにしたがつて完全な人となり諸先生に満足を与へるべく決心して居りま
 す。以上

二月二十五日 木曜日 晴 当番者 堀川清一

午前五時起床人員点呼、五時半乙班武道甲班掃除、六時半皇国運動、七時礼拝朝食、
 一笑会の総会、学科なし、七時加藤完治先生御来所。（以下赤色）午前十一時朝鮮開発
 協会総会あり（以上赤色）。午前十二時昼食一笑会員道場にて茶話会、午後一時半ヨリ
 加藤先生講話、四時終ル。六時夕食、七時自習、九時礼拝。

所感

加藤先生並に一笑会の諸名士の御来所致される。一笑会総会の日に入所後日残〔浅〕
 き田舎者の私が事務室当番の任に當つた。私は初此の任をし得るや否やをけ念された
 が、しかし之れも自治だ。自分の修養なのだ。けつして人の為に事務室当番をやるん
 でない。自分の信ずる事を精神誠意やればいいんだと思つて引受けましたが、何分初

めてなので、思ふ様に働けず諸先生に甚だ御迷わくをかけて甚だ申訳ないと思つて居りますが、私は此の二月廿五日ほど光榮であり、且自治の日は生れて初めてでした。以上

式月式拾六日 小雪 金曜日 当番者 星智夫

本日ノ行事

午前五時起床人員点呼、五時半甲班武道乙班掃除、六時五十分須藤先生ノ皇国運動、七時十分礼拝、後食事、八時二十分学科農学大意、十時二十分佐藤先生ノ稲作講話、昼食、午後一時二十分佐藤先生ノ稲作講話、三時十分五時迄柔剣道、六時夕食、七時ヨリ自習。

所感

第一回事務室当番ノ為全ク面食フ有様デ約〔役〕立タナイ有様デス。掃除カラオ客ノ応接先生ノ諸用カラ、社会的ナ生活用式ヲ学バサレル氣ガ致シマス。礼拝ノトキ勅語ヲ拝読スルトキノ氣持、弥栄ヲ絶唱スル時ノ快味ヲ覺エル胸ハ、ナントモ云ヘマセン。風邪氣味デ頭痛モカナリデシタケレド朝ノ元氣デヤリ通シマシタ。

二月二十七日 土曜 曇り 当番 菅野栗太郎

本日ノ行事

午前五時起床人員点呼、〃 五時半乙班武道甲班掃除、〃 六時五十分皇国運動、〃 七時三十分礼拝、〃 七時五十分朝食、〃 九時学科農学大意、〃 十時 全、〃 十二時昼食、午後一時三十分武道、午後三時三十分武道自習、〃 六時十分夜食、九時礼拝。

所感

昨夜は先輩齋藤君を友部の桧舞台に我等の代として送り出した。我等の名譽、否自治講習所の名譽を双肩に担はれ出發せらる姿は、実に男雄しかつたけれども、ある一方には悲しみと云ふか悦びと云ふか、一種無限の感があつた。然し今日からは川合君の参られたのは、又我等一同力強かつたのである。毎朝寝坊の僕も今日は早く起きられた。これは何のためであらうか。正しく之は責任感の爲めであらう。自分の一挙手一動作が凡て講習生一同を代表する重且つ大なる責任を負ふたのだ。入所以来最早四十日にもなるが、此れとして纏つた重点をつかむことが出来ない私は……と思へば、自

分の不甲斐なさ、又諸先生方の御教訓の力もなくなることだらうと思ひます。

然し入所前の自分と比較するならば、確に向上した点があることゝ信じます。此れ皆、諸先生方並に先輩諸兄の御教訓の賜と深く感謝して居ります。今朝は所長先生からの御教訓、私等は常に教はる物の本末を異にした行為と深く反省せざるを得なかつた。今こゝに今日の当番として本末を異にしなかつたでせうかと。考へて見れば心済まぬ気がいたします。凶書整理等にて事務室に居られなかつたため、諸先生方の不都合は数多くあつた事と思はれます。実に申し訳がなかつたのです。今後はあの朝の礼拝の御勅語の奉読、天皇陛下の弥栄の三唱の時の緊張味を心に銘じ、大和民族の大理想の実行に精進いたす覚悟です。

昭和七年二月二十八日 日曜日 降雪 当番者 古川森弥

本日行事

午前六時起床人員点呼、全六時半ヨリ全員掃除、全七時半ヨリ皇国運動、全八時礼拝、全八時四十分朝食、十二時昼飯、午後三時ヨリ朝鮮平康及新興里移住者出発式開式、午後四時半移住者夕飯食ス。午後四時五十分全員夕食、全五時移住者及ビ各先生生徒停車場へ出発。全六時十七分長官殿始メ所長殿全員移住者ヲ弥栄参唱ノ元ニ元氣ヨク御送リスル。全七時二十分全員帰所ス。全七時半人員点呼以後自習、全九時礼拝。

午前十時頃ヨリ客数名来リ、十一時頃ヨリ朝鮮平康及ビ新興里移住者及父兄御送り人来リ、二時半頃マデ全部集合シ、午後三時ヨリ朝鮮平康及ビ新興里移住者出発式、長官殿列席ノ光栄ノ元ニ開式ス。一開式ノ辞、一君ガ代奉唱、一、勅語捧読、一、所長ノ挨拶、一、長官殿訓辞、一、移住者答辞、一、弥栄参唱、一、閉式。

午後四時半移住者諸君ニ吾等ノ誠心ヲ込タル赤飯ヲ御馳走ス。午後六時十七分ノ列車ニテ移住者諸君ヲ長官殿所長殿始メ吾等一同弥栄参唱ノ元ニ御送ス。

所感

昨夜自分ハ事務室当番ヲ任命サレマシタ。タシカニ自分デ第一回目ノ事務室当番終リト思フ。其処デ自分ハ第一回目ノ最後ヲ全努力デヤル決心シタリ。全努力ニテヤル意氣ヲ以テヤル。實際愉快デアツタ。異ニ今日ハ移住者出発式デ、朝カライソガシイカツタ。長官殿ガ所長室ニ来ラレタル時、茶ヲ上ゲルコトノ出来タコトハ、非常ナル光栄トシテキル。出発式ノ際長官殿ヨリハ吾ガ子ノ如クコンコント御訓辞給ハリマシタ。吾等モ責任ノ重キニ堅ク何モノカヲ決心シタリ。吾ハ移住者諸君ノタメ腹ノ底カラ弥

栄ノ参唱シタリ。移住者諸君ガ六時十七分列車ニテ出発スルトキ、長官殿ニオカレテハ、ワザワザ停車場迄コラレ、菓子マデ移住者諸君ニ下サツタコトハ、実ニ吾ガ子ノ如クデアリマシタ。自分ガ弥栄参唱シ彼等ヲ送り一寸後ヲ向イタル時、長官殿ハ和服デジツト御送りシテキマシタ。私ハ即座ニ自然ト頭ガ下リマシタ。噫、長官殿ニ於カレテハ此ノ如クト：感極マリ落涙致シマシタ。今日ハ及バズナガラモ全努力ヲ尽シ、満足シテ眠ルコト出来ルト思フ。以上

二月二十九日 月曜日 曇り 佐藤賢三

五時起床、五時半より甲武乙掃除、七時十五分日本体操、七時四十分礼拝、八時半皇国精神と農業所長先生、十時十五分軍事講話赤間先生、一時十五分教練、三時半前と同じ、七時自習、九時礼拝。

所感

朝三時に起きてまだ早い。早く起き様、起き様とて寝たが、起きて見た時は気のきいた他人が当番の私を太鼓を打つて起してくれた。これですまんと礼拝迄の当番の行事を行ひ、朝礼拝の時弥栄と共に一日自分の全力をつくしてやつた事と思われる。私は約二年早い口で言へば修行して来たが、まだまだ講習所日課の如くやつてゐる様な物である。一步ふみ出して今迄を反省して立場立場の分担を進行したい覚悟であります。以〔以上〕

昭和七年三月一日 火曜日 雪曇 奥山信義

本日の行事

午前五時起床人員点呼、〃 五時半乙班武道甲班掃除、〃 六時五十分皇国運動、午前七時三十分礼拝、〃 七時四十五分朝食、〃 八時船越先生の習字、〃 拾時五十分嵐晴峯先生郷土史、正午昼食、午後一時所長先生の皇国精神と農業、午後三時三十分石山先生の剣道、午後六時夕食、午後七時自習、午後九時礼拝。

所感

事務室当番をやるのも事々物々に就みての修養の一つだと自分は確信し、前の当番の時は始めてであつたから、何が何やら分らず失敗したから、今度は一生懸命になり事務室当番の業務を立派に所長先生並びに諸先生が満足し得る様に遂行すべく、朝四時に起床し禊をなし、五時まではまだ時間がありましたから勉強でもしようかと思つて

机に向つたが、事務当番になつて居るせいも勉強はどこへやら、只ボウ然として如何したらどうしたら完全に任務を果し得か、様々な考慮に耽けるけれど、馬鹿な私には良い名案を考へ出す能力がなかつた。そればかりかつい脱線してぶつかる秋が来たのだ……とどしどし突きあつて自分の道を切り開いて行く前田君始め、朝鮮に移住した勇敢なる先輩諸志を想ふて羨やましくなつた。私が怎してあの強さがないのかと想ふて齒搔ゆく思ふ。でも依然として弱い人間である。あの意気込で己々理想に向つて邁進したらその途中に如何なる障害物があらうともどんな激浪怒濤か〔が〕おし寄せくるともこれを打開して実現することだろう。殊に前田君の顔には今に見てゐる、何にくそのの意気か溢れてゐる様に私の目に映じた。自分もこれからあの様な意気込にて奮闘努力すべく固く決心した。こんなことを考へて居るうちに時計は五時を打つたので太鼓を鳴らすべく室より飛び出た。今日の所感の一端です。以上

三月二日 水曜日 星與衛

午前五時起床人員点呼、五時半甲班武道乙班掃除、六時五十分皇国運動、七時四十分礼拝、七時五十分朝食、八時二十分五十嵐先生の金井村研究、十時十分地質講話安斉先生、正午昼食、午後一時産業組合山田先生、三時半大掃除、六時夕食、八時寮歌練習、十時礼拝。

所感

僕は二度目の事務室当番であるから、今度こそは気持よくやろうと思つてやつたが、頭が少し痛いので思ふ存分やれなかつた。天皇陛下の弥栄を三昌〔唱〕した時は真面目になつてやつたので汗も出ましたが、何んとなく足がふらふらして声もろくに出来なかつた。此れではならぬと思つて気をつけてやつたが、諸先生方に満足をし得るやうにされなかつた事は残念であつた。

三月三日 木曜日 晴 黒田五郎

午前五時起床合図及び人員点呼、午前五時半より甲班掃除乙班武道、午前六時五十分皇国運動、七時半礼拝、午前八時五〇分皇国精神と農業所長先生、午前十時五十分農学大意高橋先生、午後一時十五分珠算佐藤先生、午後三時二〇分武道船越先生、午後七時寮歌練習（五〇分）、午後九時礼拝。

所感

礼拝後週番者より明日の事務室当番の任命を受たので、明日は早く起床しようと思つて就床せり。朝四時に目を醒して、五時に起床合図人員点呼を成して、過〔直〕ぐ掃除をして礼拝の後の弥栄三唱の時は真面目に成つたので、何も知ら成かつた。九時より所長先生の講話は実に我等農家に取つて最も重要成る点であつて、農民に取つては忘るゝ事の出来ぬ、又是非実行しなければ成らぬ教訓であつた。私は此の第二回目の事務当番の日を忘る事の出来ぬ永久に記念に其の追懷を成す事と思ふ。以上

三月四日 金曜日 晴 三浦又男

午前五時起床人員点呼、五時半ヨリ甲班武道乙班掃除、七時ヨリ皇国運動、七時四十分礼拝、朝食八時四十分ヨリ、十時半迄農学大意、十時四十分ヨリ午後四時迄教練、四時十五分ヨリ六時迄柔剣道、七時三十分ヨリ長岡弥一郎先生作歌ノ皇国ノ歌ノモトニ茶話会ヲナス、十時礼拝。

所感

私ノ事務室当番ハ二度目デアルカラ、一生懸命デヤロウト思ツテ業務ニツクレタガ、何シロ修養ノタリナイ私ニトツテ、又ケテル所バリアツテ、思フ様ニハ行カナカツタ、又タハ長岡先生ノ大高根ノ思出ヤ色々面白キオ話ノモトニ今日ノ日ハ誠ニ愉快ナ日デアツタ。以上

三月五日 土曜日 天気晴 菅野章

午前五時起床人員点呼、〃〃五時甲班掃事〔除〕乙班武道、〃〃七時皇国運動を行ふ。〃〃七時半礼拝後朝食、〃〃八時二十分至る十時農学大意、〃〃十時至る十二時まで教練赤間先生、正午中食、午後一時より屋外教練四時半まで、午後五時夕食、午後六時至る九時まで自由、午後九時点呼参拝を行フ。

所感

第二回の事務室当番であります但中々思ふ存分行ふ事の出来なかつたのを残念である。しかし今後は注意に注意を致し理想にむかひて進む決心です。

三月六日 日曜日 晴 森光男

午前六時起床点呼、全半総員掃除、全七時廿分皇国運動、全八時礼拝後朝食、全八時半馬鈴薯運び、正后昼食、十二時半八時半と同、五時止、五時半夜食、七時九時迄自

習、九時点呼拝礼寢床。

所感

自分も事務室当番である。常に己が受持に精進して、其して各も各もの上に神のましますことを忘れず、有難くなつかしみ思ふ心を有つてして、其の一端の事務室当番になった。而し今日は馬鈴薯運びに手助けを致し、事務室の任務に居る事出来ず、諸先生方はさぞ手不足であつたらうと思ひました。今後内も外も唯押なべて弥栄の一つ心に追ひ進む覚悟です。以上

三月七日 月曜日 晴 清野本

本日の行事

午前五時起床点呼、五時半甲班武道乙班掃除、七時皇国運動を行ふ、七時半参拝後に朝食、八時半至る十時迄農学大意、十時半より十二時迄教練赤間先生。

午后中食後一時より三時迄教練、其の後五時迄教練学科、五時半に夕食、七時に不時点呼を行ふ、九時点呼し参拝。

所感

午前四時半に自から責任を感じ自から目がさめた。直に禊に走り冷水を身にかけて時は不能なる物は全部清洗し実に状「壮」快であつた。其の心持にて事務室当番に従事しました。そして事々物々に就いて心をそゞぎ修養し、其の以前は自分の前途は暗い心であつたが、今日は完全に明るくなり、此の心を以つて神に感謝し自分の思ふ存分に遂行したい考えであります。以上

三月八日 火曜日 阿部盛雄

午前五時に起床、道場にて人員点呼、五時半甲班掃除乙班武道、七時皇国運動、八時礼拝後朝食、九時より十時半まで皇国精神と農業、十一時より十二時まで郷土史、午後一時より三時まで習字、四時より大掃除、六時半にて夕食、九時参拝。

所感

今朝四時に飛び起きて舟越先生より鍛へられたる武道の意気込を以て禊、事務室掃除をした。実に言ふに言はれない美しい気分となつて、出遭つた人に向つて、才早ウ、イヤ、才早ウと打ち解けて一心同体として行動を開始した。其の意気込が一日の生活を支配した。私の一日の生活の初めは、神代から今日に至るまでの種々の準備が台と

なり、之を一つに鍛へ上げたる所の精鋭なる朝の意気込を以て其の日の終日の生活を開始得たのである。以上

三月九日 水曜 雪、昨夜の雪五、六寸有 当番者 武田正

一、午前一校時 高橋先生 農学大意

一、〃 二校時 安済先生 地質学

一、午后三校時 山田先生 産業組合

一、〃 四校時 四時二十分より五時半迄石山先生剣道、夜風呂たち有。

平康移住者三名、講習終りて帰宅す。足袋類商人来る。

所感

一夜にして又冬となつた。一日たったら又春にならう。一月頃の天候に比し余り□候ある様だ。私は自治講習所の事務室当番は今日ぎりでは今後は永久に無いだろうと思ひ、夕べより志願した様な事でした。又同じく日本体操も一つやってみようと思つた処に所長先生より、武田君今日一つと……。此れ幸ひと早速リーダーに付いたが思う様には行かなかつた。

私は今々世の中の荒波に向はじ巻き「向こう鉢巻き」で乗出さんとして居るが、やはり思う様には行かぬだらうが、行く様に奮闘努力するのが私の理想である。

〔三月十日 木曜〕当番者 金澤孫治

第一校時五十嵐政次郎、第二校時農学大意、第三校時馬鈴薯パン製造見学、午后三時半頃より県会議事堂展覧会見物に行きました。朝鮮移住者の申込四五人来り、午後六時より第一小学校ニ於て教育活動写真ありて許可受けて全員出動しました。終業也。

所感

当日ハ天晴ノ気分で想ひ起す陸軍記念日の日であつた。我々祖先は満蒙天地を明るくし、又日本を開発第一歩でありました。我々は此の心持を永久に弥栄と共に理想を持つて踏んで行く考です。又小学校で活動写真を見せて国民に緊張力を増しました。実に天晴れな気分を永久に保ちます。

三月十一日 金曜日 晴 当番 齋藤登

起床五時、第一校時農学大意、高橋先生、第二校時農学大意、高橋先生、第三校時教

練、赤間先生、第四校時軍事講話、赤間先生、所長先生岩手県に行く。風呂有り。
所感

自分は今日事務室当番で有りながら五時頃眼がさめず、誰かが太鼓をならしたので眼がさめた時、しまったと思つたが致し方が無い。すぐ道場に行つた。そして禊も何もするひ間が無つた。然し先生方の天晴れな顔を見ると禊した様で有つた。以上

三月十二日 土曜日 曇后雨 事務室当番 古瀬吉蔵

起床五時、一校時農学大意、二校時農学大意、三校時教練、野外教練、四校時も同様。

所感

自分は事務室当番をやつて責任感念を頭に感じた。それは朝四時に起床したことです。今日まで太鼓鳴るまで寝ている私が今日四時に起きたとは偶然です。此の責任感を遂行しようと思つています。又事務室には来客がある。此の来客は大和民族の理想実現者であ□□□□と思います。彼の来客は舟越先生から満蒙殖民の説明を頭を額きて一言も漏らさじと聞いている状態は、私の模範とすべきであると感じました。多変〔大変〕修養になりました。以上

三月十三日 日曜 曇 武田元衛

一、起床六時、一、略式皇国運動、一、午前中全員萩野の馬鈴薯荷造手伝

所感

バチバチと屋上を打つ雨垂の声でひよつと眠醒た。これわと思つて頭を上げて見ると相沢君は到に禊に行つて居るらしい。正面に顔を向けて見れば窓掛透しに薄あかりが射して居た。すずめの声が耳膜を打つた。さあこまつた、遅れたと思つて目をこすりながら朦朧として起き時計の下に行き五時に目をやると、すでに経過しておつた。しまったと思つて居るうち感付いたのは、今日は日曜で六時起床だ。ほつと安心して禊に急いだ。日曜の事務室はどんなにか寂念を漂はす事と思つて居たら、朝から来客が続入して混雑を呈した。いづれも皆な満州殖民の希望者で、手続の方法、向ふの状況を聞に來たのであつた。其のいづれの者も希望に開拓に燃えた結心〔決心〕で茂木君と面談しておる。僕も聞止どめる事多々あつた。實際興奮させられた。

夜の事務室は昼と変つた。不時点呼がすみ僕一人が事務室に残り、高橋先生の、君又頼むよと言ふ言葉が耳に触れた時、何んとも云われない感に打たれた。其れは一人ごと

云ふ淋しさであつた。唯時計のみがかちかちと時をきざむ。時々如^{イヌコ}処からか身を碎く様な寒風がゴーンゴーンと云ふ鐘の音を響かせて窓を打つ。益感慨を深くした。了

三月十四日 月曜日 少雨 当番者 水沼保

午前五時起床人員点呼、午前五時半分甲班武道乙班掃事〔掃除〕、午前七時皇国運動、七時四十分礼拝、午前八時朝食、一効〔校〕時高橋先生ノ御話二効〔校〕時ヨリ教練、正午昼食、午后ヨリ三時迄教練、午后三時半ヨリ五時迄教練学科、午後五時半夕食、七時自習時間服装検査、午後九時礼拝。

所感

朝より曇りで明日の天候が思れる。一効時〔校時〕には高橋先生の御話を御聞して我等は大いに得る所がありました。今日も満蒙移住者が多く来て居ました。皆の顔には御国の為め成功しようとの決心の色が現はれて見えるが、併し移住して其土地其の国に自己の出来得る限の力をつくそうとする心があらわれて居ない。例へば今或る畑に作物を栽培して肥料をあたえずして多くの収穫を得る事が出来ない。移民して其の土地其の国の為めつくさずして御国の為成功する事が出来るか、我等も明日の兵営生活には軍隊には自治精神をあたえ、我等は軍隊精神を得て来ようと思ふ。以上

三月十五日 火曜日 曇 当番者 星智夫

午前五時起床人員点呼、五時半乙班武道甲班掃除、七時皇国運動、七時半礼拝弥栄朝食、八時兵営生活出發

今日から兵営生活が有りますので、高橋先生及び樋口兄や昨夜から色々御注意ありまして万端落なく、午前八時勇ましく校庭に整列致しました。総員三十六名、高橋先生指揮の元に、丁度入営軍人の如く雄々しく歩調を揃へて出發致しました。居残り小野君川合君菅君、星、御見送りをして留守を御引受致しました。数名の御来客総ては満蒙に志す健児諸兄氏であります。明け行く満蒙を目ざして……。

深瀬兄は今日いよいよ朝鮮へ出發される事になりましたので川合兄、菅君、私達御見送り、声の限り弥栄を讃して元氣良く御出て發を送りました。夜八時頃所長先生が岩手県下の御講演からお帰りになりました。午後九時礼拝後就床。

三月十五日 火曜日〔十五日火曜日は二本目〕 曇り 三浦又男 臨事

兵營生活ノ一日目、先ヅ我等三十五名ハ高橋先生樋口兄ヲ先頭ニ、午前九時入隊。先ヅ全員ノ用ヒル銃劍類ヲ借り部屋ヲ渡サレ、ソコニテ銃劍類ヲ掃除ヲシテ毛布ヲタ、ミ昼食、午後一時ヨリ赤間先生初メ伍長二人、上等兵二人ノモトニ第三復練兵場ニ行キ、五時迄不動ノ姿勢、立射ヲ教ワツテ、五時半ニ夕食シ、後ニ我レハ伊藤班長ノ所ニ面会ニ行ツテ来マスト、一寸話ガアルカラ話後ニト云ツタ。ソウデスカト我ハ帰り、班長ヨリノ話ガアリ、不寝番ノ割アテヤ色々ノ話ヲ聞イテイル内ニ腹痛ヲ感ジ、大便所ニ行キ来リテ見レバ、皆ガ話ガ終リ、二三人酒保ニ行クモノモアリ。デハト云フノデ、私ハ面会ニ行キマシタ。ソノ時私シガ八時二点呼ト思ツテイツタガ、七時半デアツタ為、先生ヤ全員一同ニ申訳ノナイコトヲ心ヨリ恥ト思ヒ、ソレカラハソウイウ事ノナイ様ニ一層心ガケマシタ。私シハソレヲナサケナク思ツテナリマセンデシタ。終リ。

三月十六日 水曜日 当番 安食喜一

午前六時起床、点呼、室内掃除、襖、午前七時半朝食、午前八時より第三大隊の覆練兵場にて各個教練主として射撃動作。十二時昼食、午後一時より午前中のつゞき各個教練、午後五時終る。午後七時半点呼、九時消灯。

所感

馴れない軍隊生活のせいか、皆くたびれているやうだ。でも六時起床でひまな時間も相当あるからそんなでもない。今まであこがれてた軍隊生活に来て今日で二日目、果して何を心得る所があつたらうか。皆各自そう得たものが相当あると思ふ。軍隊生活に於る襖の味も亦格別だ。めしは馬鹿にぜいたくだ。僕の一番痛切に感じたのは、第一規律正しく正しく時間を守る事、第二上官に対して絶対的に服従する事、服従の中にも親しみのある事。短期間の軍隊生活だ。皆しつかりやつた様だ。以上

三月十七日 木曜日 阿部盛雄

午前六時起床、同時二人員点呼体操、午前六時掃除、午前七時皇国運動、午前七時半朝食、午前九時より十二時まで狭窄射撃、午后一時より練習所にて演習見学。

三日目の営内生活も展開された。運悪くして本日も白雪に依つておほわれていた。本日も楽しい楽しい狭窄射撃であつた。なんだか思ふ様にはいかなかつた。なんだか規律正しく正しく、そして嚴重なる中に親しみありて、実に感心した。軍人生活と自治寮

の生活をくらぶるならば、そこに大いした違いはないけれども、まだまだ軍隊生活を取り入れる点の有る様に感ずる。我等の生活もてついでにしているが、これ以上だ。実に驚かざるを得ない。狭窄射撃はうまく行かんで悲感した。午後一時より軍隊見学、その活動ぶり、白雪を物ともせず横たわり、散解前進の有様の殊に歩腹〔匍匐〕前進等は涙だの出る様な感じがしみじみと感じさせられた。僕等も後にやつたが、手、足がもげるやうでありました。この一日は永久に忘れられない日と思ふ。苦しいと思ふ兵営生活も真面目〔真面目〕に真剣にやれば案外暢気なものだと思ふた。只だ班長さんの命令を後生大事に守らなければならぬと思ふた。兵営内に於いては食事操練修学起床就眠に至るまで、悉く喇叭を以て号令を伝へられ、要するに軍隊は規律正しく大家庭にして男児の修練場に外ならず、男子なる国民のものは一度は必ず必ず通すべき門戸なるべくと心得た。僕等の班長は鈴木伍長で、大変やさしく真実に心から出るやさしさと、身に沁む程でありました。実に兵営生活は面白い。あの内舎は幾つともなく相連続して又兵舎倉庫等位置よく建設せられ、又我々の如き寝坊にも喇叭の音にて真ぐに眼がさめる。手水洗面もせず、一通の服装して日朝点呼。何んと言ふ兵営生活は面白い。もう一回兵営生活をして見たいと思ふ。

三月十九日 金曜日 当番 相田栄助

起床六時点呼体操、七時皇国運動礼拝、七時三十分朝食、八時二十分ヨリ九時迄洗濯、九時三十分機関銃実射、十二時昼食、一時ヨリ佐藤聯隊長ヨリ訓辞、一時三十分銃掃除、営出発二時三十分、帰所三時半、四時大掃除、五時半夕食、九時礼拝。

所感

今日は軍隊生活の最後の日である。皆な元気である。それに九時から機関銃実射されるとして喜んで居る。私も嬉し□□□いよいよ十時頃に射ちました。ほんとに面白かつた。それから一時ヨリ聯隊の訓話が自分に中心の底から感じました。第一自己健□と青春時代の味はへ□れました。実に意味ある、そして□□には最も大切なるであるから、自分が出得る限り自己をつくる覚悟であります。

三月廿日 日曜日 雪降 当番者 小野功

本日行事

一、午前六時起床並点呼総員廿一名、一、午前六時半総員掃除を行ふ、一、午前七時

半皇国運動、一、午前八時礼拝、同朝飯、一、午拾二時中昼、一、午后五時夕飯頂ク、
一、午后七時ヨリ九時迄自習時間、一、午后九時礼拝並寢床。

所感一端

朝に行ふ禊には僕は氣持良き事一言書示し置きます。今日の掃除には大勢帰宅者ある
ので掃除の人には実に御苦勞でした。私も事務室のストーブそばにてあたりながら
掃除して居るが、それでも冷さを感じる私でした。思ふば便所当番の方に実に寒むか
つた□と思ふ。朝夕飯の役よりは日曜日に外出の人も□く見える様です。

午后二時頃には鳴郷村青年団拾一名訪問あり。高橋先生と色々なる話される私は此
の来客にお茶□□廻りお茶給仕の様の如く思ふわれる程です。

此の来客に対してお湯の出来ていなのに閉口しました。そこで私の部屋よりやかんを
持ついつてお茶を飲せました。この青年団を自治寮の中を高橋先生は案内なされ、一
つ一つ説明されたので、良く見学なされ帰れたことかと思ひます。午后三時半頃に□□
を出て行かれました。此処に私の恥かつたのは青年団の□□事務室に掛けてある写真
を聞かれ、お茶弁出来ぬかつた事は本真に恥しかつた。後で須藤君に聞いて石川翁の額
である事を知りました。以上、今日当番も終り告げる「不□

三月廿一日 月曜日 春季皇霊祭 曇 小雪 当番者 小野憲

午前六時起床、我が国太古をしのばれる太鼓の響に、寮は春の旭日をうけてあけて行
く。力のかぎり打ならす音ハ寮生をリードして心も身もめざむべきとゞろきだ。

午前六時六時半掃除。全員すべての悪を禊はらひして、小鳥の如くほがらかにいとも
楽しげに掃除に取かゝる。

午前七時皇国運動、人員は少ない、されど意気にもゆる若人の集ひ「あまつ日かげを
まともにかざし世界の表にさきだち行かん」意気を以て運動行進をなす。

午前七時半朝食、自治寮の誇、厳肅な、しかも家庭的な楽しい食事をとる。
十一時昼食、寮製のクリームに腹をみたす。

十二時茂木君リーダーにて有志数名ハ霞城館に「三勇士」を見にゆく。四時頃かへる。
三勇士はさしたる事なく真に迫る感はでなかつたが、ニュースには彼の故郷遠き地に
遠き父母を忘れ、御国のため働く勇士には涙の出づるを感ぜられた。自分ハ今日のよ
き日に神仏に遠き彼等勇士の前途の多幸を祈らん。

午後三時頃、庄内の佐藤君、秋田の佐藤君、二人新しく寮に入る。我等は二人の同志

を得てうれしき事此の上なし。

午後九時礼拝就床、一日の活動につかれた若人は安らげくねむりにつく。自治寮の灯は消へてさらに音なし。

所感

弥生の頃、粉雪降りしきる街頭にひるがへる日章旗をながめつゝ、今日の日をおくる。今日は村社月山神社では祈念祭が行はれるのだ。いつも列席する自分が、今日事務室当番で、寮生をリードする。嗚呼快なるかなだ。こんなわけでもあるまいが、神々しい神前に額けば「なにごとをおおしますかハ知らねども、有難さにぞ涙こぼるゝ」の句も今更ながら思ひ起され「尊き御代の男の子と生れたる」自分を此の上なくたのもしく思はれると共に、帝国臣民としての「働のなくてあらめやの」心をいよいよ深くする。午後ストーブの側に静かに坐つてみると、すべての物が春を迎へ、彼等の生命の活動へと進むのが見うけられる。かうしてポツネンと一人居すると自然とねむけがさして来る。この時所長先生の言葉が思ひ出された、「大和民族は活動の民なり」と。今自分の心は万物の生命の活動の交響樂につれて死なんとして居るのだ。さうだ、人間は活動がなければ死だ。ねむい、之は己の心が死んでゐるのだ。若人よ!! ほがらかに歌へ!! 僕は歌つた! 死なんとした心をよびさましたのだ。「渴れる海にたゞよへる……我が国民を助へんと……」「行途を拒むもな（もの）あらば斬りて捨つるに……」己の声のあらんかぎりで歌つた時、僕の心を天晴だった。何も文句はない。たゞ天晴だった!!

午後高橋先生のお話をきいた、「すべて世の中の事は小事にもあらはれる、たとへば集合の時いつでも早いものも結局世に立つても万人にさき立つて行く物だ」と。

僕はそれで考へた。さうした人物は必ず心の奥底に日本魂を存してゐる人ではないかと。僕はさうだと信ずる。今日はすべての点に於て多々記念すべき日だった。自分はいくまで天晴の気で「万難を歓迎して運命の開拓に猛進しやう」と天地にかたくちかつた。終り

三月拾九日 土曜日 曇后晴 舟山正悦

起床五時聯隊生活の為皆熟眠しておる。太鼓の一音高く鳴り響き、夢路は断たれた。

五時半乙班武道甲班掃除、朝の行事は例日と同様、朝食后高橋先生から鉱物に関する講話有り、八時山寺え行軍、樋口君引率のもとに出発す。天候に恵まれたる我々は音

高らかに歌いつゝ、一足一足目的地を目ざして進軍す。十時半荒野野橋に到着す。そこで十分間休息して山寺に付いたのは十一時半でした。教官も須藤さんも追着く。山寺の河原に於て教官殿より飯午製産の方法注意講話有り、それぞれ分担せらる。それぞれ自己の分担にはげむ。忽ちにして飯は出た。寒風平然と吹いている。午后壱時寺前にて空腹の余り滅茶滅茶と食事も終り一時半より山寺見物で有る。二三名山に登らぬものも有った。三時再び寺前に集合して帰寮の途に付く。次第につかれも増し隊伍も乱れてしまふ。途中より帰省するもの二三人有り。懐しの寮にかへりたる時は五時でした。二日連日休暇の為め帰宅するもの非常に多く、残りたるものわずか二十名、晩食も極度の空腹の為め、皆んなは実においしく終る。其れから久し振りにて湯に入りに行くものも有り。床にもぐりこんで山寺見物の夢見ながら心地良くねている者も有った。九時礼拝就床す。

所感

聯隊生活のつかれで今日の事務当番を完全に遂行する事の出来なかつた自己の責任感から、今日一日不愉快で甚「堪」らなかつた。朝の太鼓を鳴らす分担を遂行する事の出来なかつた事で有る。而、郊外に出で新鮮なる大気の中に天然の影色を夢見ながら唄ふ時、農業の懐しさがしみじみと感ずるので有る。農業にあらざればかゝる所で十分活やくする事の出来なと思ふ時、殊更で有る。此く有ればこそ、農民青年の理想は確固たる精神の元にきづき上げられていくので有る。理想は農民青年に有り。山形県の名所と指を折られし山寺の天狗岩に昇り、すめらみこと弥栄を唱ふる時、神心合一とはこの事かとさとつた。そして自己の理想は一丁眼前に有る如く、つくづくと感ずるを得なかつた。一同恐ろしさ等は感ない。そして大宇宙を征服した如き感で、有らん限りの音で空を仰いだ。二足三足よろめいた。所々見物して自然の影色、優美なる事につくづく感ぶくしてしまつた。何故かゝる岩石に穴があいたかと云ふぎもんが出て来るので有る。それは何んだかわからなかつた。影色の優美なる所に神のおわします時は尚一層の尊敬の念が増すもので有ると悟つた今日、行軍は実に得る所大にして皆んなはかへる。

三月二二日 火曜 曇 当番者 相澤知二

午前五時起床点呼、〃五時半甲班武道、乙班掃除、〃七時皇国運動、〃七時半礼拝朝食、〃八時―十時農学大意、〃十時―十二時習字、午後一時―三時珠算、〃三時―五

時葡萄、〃七時―九時入浴自習、〃九時礼拝。

所感

自治寮生活も二月余過し、残る□〔口へんに久〕少くなつた。過ぎし二個月は如何に？大いに反省し緊褲一番奮闘せねばならぬ。所長先生は置賜地方へ講演に、郷土史五十嵐先生はお出にならず舟越先生は風邪の為め休まれて居る。それに高橋先生は急病発せられ、一同実に驚きなす所を知らざる有様でした。然し直ぐ全快せられ何よりでした。

習字は自習、武道自習中水沼君が手を損じ氣の毒でした。舟越先生のお手に倣つて助かりました。実に今日は先生を初め悪日であつた。

三月廿三日 水 晴 当番者 西山進

午前五時起床点呼、〃五時半甲班掃除乙班武道、〃七時皇国運動、〃七時半礼拝朝飯、

〃八時―十時金井村研究、〃十時―十二時習字（茂木君ヨリ）、后一時―三時産業組合、

〃三時―五時 〃。The end

「所感」

打ち鳴らす太鼓の音も軽々と三月廿三日の朝はやつて来た。ドンドン、今日の我等に幸あれと身と心をちかつたる其の音、天使の肩に乗せ：神国はるかに響せる。

寝れる獅子の若人はまだ温き白布をば雄しく蹴つて立ち上り、自治寮庭に起立する。

そして各自の分担に歩をさしむける雄々しさよ。まだ薄暗き廊下を下つて自分は事務室のドアに手をかける。音もなく開いた事務室内はシーンとして薄暗の中に置れてある。きりつとつめあり「詰め襟」服に身を堅めた自分によつて、今日初めての第一歩を入れる。早や硝戸ごしに明けて行く大空も起床、天使の答の如く、音も無く静かに黎明の世に導いて行く。おゝ何んと云ふ神聖なるシーンであらう。思はず吾は手を止めて精神一統一腹にこめ、静かに目をつぶつて「あの大和魂なる者はこれだとなうなぶかれた……そして目を聞「開」いた……そして精神一統何事かならざらんの動作の思はず知らず働いてゐるを知つた。そしてこの氣この心の連続が常の心であつたらと：願つて見たりした。時計の音が一人カチカチカチ動いてゐた。友の元氣善き朝の努めの声がドア越しに聞えて来る……そして日は廻る。時の立つにつれて繁くなる来訪者の応待、事務室独特のあの空氣、どことなく学校全面を代表する様な寮の発電所の様な其処に働く倭「矮」少なる我にも、天使命がある様で氣苦しくてならなかつた。そ

して時の過ぎるにつれて赤い夕日が真赤に窓硝子を染める頃、ぼつぼつ来訪者、先生の姿が消えて我一人ストーブの側に腰を落しておもむろに恙無きを考へて見た。斯うした努めにより、一つはゼントルマンシツプ、二つはゼントルマンタイプの養生〔成〕にどれ程得る所があらうと連々として、床につく迄続いて居た。The end

三月廿四日 木曜日 当番者 本田総一

午前五時起床ト共ニ人員点呼、〃五時半甲班武道乙班掃除、〃七時全員皇国運動、〃七時半礼拝朝食、〃九時ヨリ十時半迄皇国精神ト農業、〃十時五十分ヨリ正午迄農学大意、午後一時ヨリ三時迄珠算、〃三時ヨリ五時剣道、〃七時ヨリ九時迄自習、〃九時礼拝：消灯

所感

何時モ起床ノ合図前ハ起キタ事ノナイ自分ガ、今日ハ一日ノ寮生活ニ於ケル重大ナル任務ヲ有スル事務室当番、責任感ノ下ニ四時頃眼ガ醒メル。真先ニ冷水ニ襖被ヒヲ為シ、五時ヲ待ツ。精一パイ太鼓ノ響ニ平和ナ寂寥ダツタ自治寮ノ夢ハ一瞬ニ破ラレ、希望ト精氣トニ張ル若人ノ活動ノ第一歩ハ始マル。皇国運動ノ際台上ニ所長先生ガ久シ振リニテ元氣ナ笑顔ヲ現ワサル。吾等ハ嬉シサデーパイダツタ。

早速第一項時ニ皇国精神ノ講義ヲ受ク。岩手県ニ於エテ先生ノ満蒙問題講演ノ才話等承ワツテ実ニ痛快デアツタ。今日モ一日事務室ニハ海外雄飛満蒙植民青年ガ続々来テアツタ。狭苦シイ郷土ニスミ兼ネ、男々シクモ広亡自然ノ地希望ノ地ニ猛進セントスル若人ニ自分ハ心ヨリ口招ヲシタ。ソシテ心ノ中ニ彼等ノ成功ト弥栄ヲ祈ツテ止マナカツタ。

三月二十五日 金曜 晴 当番 遠藤忠雄

午前四時に起床、先づ本所第一修業の襖に出かけた。物音一つせず静な朝だ。自分が襖は先頭だらうと思ひ洗面所に行つたら、もう唯「誰か」が襖したようでした。あゝ、など早い人もある物だ。自分などは未だ未だ修業が足りない。事務室掃除しに行き掃除しながら、起床合図太鼓の打つまで五分間有ると思っておる内に、起床合図の太鼓がなり出した。これと思ひ陞上〔階上〕に行つたら茂木さんが打つて下つたのでした。すまない思つた。五時起床点呼。五時半分担点呼、乙班武道甲班掃除、七時に皇国運動、七時半礼拝朝食、八時半より正午農学大意、午後一時半より三時迄皇国運動神惟

「かんながら」のところに付きて講話。四時より柔剣道、六時夕食、七時―九時自習
 第一班より入浴。

所感

事務室当番は此ノ度と二度目だ。此の前は至らぬ所が多くあつたやうでしたから、此度こそ此の前の補ほうと及ばずながら誠を持つて任務はたした考へですが、未だ未だ足りないと思はれた。又かうして事務室居りますと次二次ニと日本の生命線たる満蒙に植民希望に燃へた青年を思へば、只役目的な本所生活を送りたくない、どうしてもしつかり自己を建設し本所の本旨に反せず皇国農民としての本分を尽したい決心です。

三月廿六日 土曜日 晴 当番者 堀川清一

午前五時起と供に人員点呼、〃五時半甲班武道乙班掃除、〃七時武道終る、〃七時十分皇国運動、安食君が最初のリーダーとして非常な元氣とそこ力のある意気込を以つて我等を統率して理想の彼岸にいざ進む。〃七時四十分礼拝、〃七時五十分朝食、〃八時二十分生徒全部所前に整列人員点呼、総員四十三名所長先生、高橋先生に御挨拶を至し、茂木君引率のもとに米の知識を得んが目的で穀物検査場に出発する。全九時一寸前山形県穀物験〔検〕査場に当〔到〕着、全九時より駒谷先生より含有米、本県奨励品種、此等米の味の良非〔否〕に付いての講話十時迄。全十時より樋口先生より国民経済と米価の変動及び米の取引の常識問題の講話十一時半迄。正午穀物験査場の受講室にて昼食、午後零時半より樋口先生、午前中の講話に続講二時迄、午後二時二十分より駒谷先生より米の実物、村山標準米を見ながら講話を拝聴する、三時半終り。午後三時半全員整列して茂木君の引率のもとに穀物験査場出発、全四時十分我等が道場に当〔到〕着、全五時半夕食、自由、全九時礼拝就床。

所感

自我の生命は偶〔偶〕然なる生命にあらずして、常に自分を通して講習所郷出、大日本を表現してゐるものである故に、我等は責任に感じ、自分の務に感謝して本分に努力奮闘して向上発展せなければならぬものであると、常に所長先生高橋先生に教はれて居り、又自分も此の理想に向つて人物を養成する覚悟を有しつゝあるも、いまだ修養の足らざる自分は偶然ならざる生命を日々偶然に送つて居る様ですが、直接に自分の分担として事務室、炊事、便所、当番をになふ時は感謝して本分を尽すと言ふ事は、修養の足らざる私には出来ませんが、責任に感じて自分の任務に努力奮闘すると言ふ責

任觀念と意気込みがわき立つて来る。其の責任觀念が日を逐ひ分担をつくす度毎に強くなつて来る様です。今日も事務室当番となつて第一に責任に感じました。其して自分の分担に努、奮闘して完全に遂行し様と覚悟して、朝四時半にみそぎをせり。自分の我がまゝをころし天地の大生命に合一する気分を養ひ任務に取りかゝつたものゝ、何分日々偶然に送つて居る為に掃除をやるにもどれから先にやればよいものやら、しつかり忘れしまつた為に、朝高橋先生にぞうきんをにぎらせるに至つた。自分は非常に恐縮しました。其して今迄の自分の余りにのん気で日々無意と食〔無為徒食〕に送つて来た事を反省させられました。其して自分の将来の修養方針がだんだん確立づけられて来る様な感じがした。私は事務室炊事当番をなし度に自分を反省させられ、将来の指針が益々強固になつて行くのを感じ愉快でならない。

穀物検査場にて駒谷先生より村山標準米を見ながら講話を聞いたので、我等に取つて大いに参考になり、米の知識を知る事が出来ました。樋口先生の国民経済米価変動及び米の取引の常識に付いての講話は僕にはあまりわかりにくかつたので不平を感じた。之れも直接関係のない常識問題でなくむしろ専門〔門〕的な講話なので、此れは自分にあまり関係のない講話だから聞かなくともよいと自我に執着した為に、なほわかりにくかつたのであらうと思ひ、何故に僕はこう迄自我に執着するのか、之れでは毎日みそぎをなして修養しても、のん気に考へがへなしにやつて居るから駄目なのだ。今後は自重して拙我の精神を徹底的に体徳〔体得〕せんければならないと感じさせられた。以上。

三月二十七日 土曜日 晴 午後七時頃ヨリ雨 事務室当番 佐藤正俊

午前六時起床点呼、全六時半ヨリ全員掃除、全七時ヨリ皇国運動、全七時半頃ヨリ礼拝、全八時式拾分頃朝食、全拾貳時昼食―ジャムパン、午後五時夕食、全七時ヨリ自習間、全九時礼拝

感想

入所以来初メテノ事務室当番ニ当リシ自分ハ、何一ツトシテ心ヅクデモナシ、又不注意ノタメカストーブ之火ヲ參四回モ消シテシモウタト言フ様ナ、甚面目無イ様ナ動作ヲシテ真ニ申訳ナイ。故ニ今後ハ如何ナル事ガ有ツモ良ク注意ヲワスレナイ様ニシテ事ニ当ラウト思フ。

三月二十八日 月曜日 雨 当番者 金澤嘉代治

午前五時起床点呼、〃五時半甲班掃除乙班武道、〃七時武道終、〃七時二十分皇国運動、〃七時四十分礼拝、〃七時五十分朝食、〃八時拾五分軍事学科、正午迄全、昼食
 バターパン、午后一時拾分ヨリ三時迄習字、〃三時ヨリ六時迄武道ノ講義、〃六時半
 夕食、〃七時ヨリ九時迄自習時間、〃九時点呼、明日当番報告礼拝。

所感

自分は入所以来今日と二度目の事務室当番になりました。日曜日に帰宅して堆肥運搬
 に手伝ひて疲労して朝早く起ることが出来ないかと心配して居つたが、重大なる任務の
 事務室当番を負ひ、責任感〔観〕念にて三時五十分に起床したのに安心した。すぐ冷
 水にて禊をなし部屋に来て読書しながら、起床時刻の打つのを待つて居り、五時打つ
 とすぐ起床合図の太鼓を満心〔身〕の力をこめて打鳴らす。太鼓の響に平和な自治寮
 の夢路は破られた。各自の分担を理想実現する希望と精気に漲る寮生は、朝の行事の
 第一歩の禊にて精神を清められ、今日一日心身鍛練に努力奮闘に活動して行くのです。
 朝の礼拝の時に精一パイに弥栄を唱へたが、思ふ存分声が出なかつた。実に遺憾に堪
 へなかつた。午前中に日本の生命線たる満蒙植民希望者が願書提出する者の多いのに
 驚きました。広漠たる満蒙の新天地に活躍する植民希望者を自分より成功と弥栄とを
 祈るます。夜の礼拝の時に須藤君より教訓を与へられたことは確守します。今後一ヶ
 月は有意義に入所当時の決心自己を反省し、本所の本旨に武道の打込の精神を發揮し
 て努力奮闘を以つて遂行の覚悟です。

三月廿九日 火曜日 小雪 当番者 庄司定治郎

午前五時起床合図の太鼓を打つ。同時点呼有り。午前五時半武道始めの貝を吹く。武
 道は甲班掃除は乙班でした。六時半に武道修めの貝をふき、七時二十分より皇国運動、
 七時四十分礼拝す。八時朝食、八時半より学科一校時須藤君軍隊生活の所感、各自筆
 記、第二校時農学大意、肥料に付て講義、高橋先生、午后の一校時第二校時続き（午
 前の）、第二校時柔道剣道、六時夕食、七時自習時の合図貝をふく。

所感

自分は今時に第二回だ。第一回の不尽を美化すべく努力した。然しまだまだ努力しな
 ければならぬのだ。自己の天性を発見し其の天命を自覚するには、我々我が身
 を反省し、日夕常に謹慎注意し、目的にまい進するに四圍の圧迫あり生活難ありとも

断じて更すべからず、遂行して已まん。

三月三十日 水曜日 曇 当番者 柴田敏夫

午前五時起床、自分の打つ太鼓の音一つ一つがみんなの今日一日の活動の第一歩であると思ひ、一つ一つに全精神を打ち込むで太鼓を打つ。五時半掃除、七時まで武道何時もと同じ、七時皇国運動礼拝朝食、八時四十分皇国精神と農業、十時半農学大意、午後一時十分産業組合の簿記について、午後四時各室のみ大掃除、平康移住者補欠三戸今日出発につき他の寮内の掃除は止め、四時半平康移住者補欠出発式挙行、五時半平康移住者と共に夕食、五時十分頃所長先生指揮のもとに移住者見送りに出発、后六時〇九分の列車にて出発、僕等はあらん限りの声をしばつて彼等の弥栄を叫ぶ。

山形県の次三男、いな東北の次三男の今後進むべき道を明らかに示して行く彼等よ、平康移住者最後の最後を飾るべく行く勇士等よ、新しき天地へ、「天晴れーおけ」の心をもつて希望をもつてスタートする彼等よ、弥々益々弥栄たらんことを祈る。」

七時より自習時間、九時礼拝、今日一日の活動の最後である太鼓を打つ、何事も最後をしつかりやらねばならぬ。終りを全うせねばならぬと思ひます。その意味に於て今日の自分の行動を反省しながら責任を感じ、そして今後益々奮闘努力することを誓ひながら太鼓に一桴一桴を加ふ。一步一步向上の途にある若人達は明日は更により以上の奮闘努力を斯しながら寝につく。

所感

皇国運動のリーダーをする自信をもつて始めたつもりでしたけれども、なかなか思ふ通りには行かなかつた。あがつてしまつて自分が何を言つたか何を言つたかわからなくなつてしまふ。実に残念でありました。この次こそ失敗せねやうにせねばならぬ。この様にたやすくは死ぬまで世の中は思ふ通りに行かないであらう。まゝならぬ浮世の常とか何とか云ふもので、しかしながら我等はあくまで奮闘しつゞけねばならぬ。「大和民族の人生観は奮闘努力なり」と、「玉ちかふ神の御光たづねつゝ、いざ漕ぎ漕がむ、此の海原を」、そして「おのも各も世を提げてためらはず高天原に参上らなむ」。我等はかくするべく日々を生活して行かう。其所に真の意義ある人生が生れるのだ。澁刺たる希望に燃ゆる若人達は心から歌ふ。歌と自分とが合致するだ。心の奥底からの叫びだ。「時乾坤のうつろひに……我が責任こそ身にあまれ」。光明の国、秀麗の国に生れ来た我等は宏遠なる理想、確固たる信念をもつて、一步一步而して確実に我等が責

任を果して世界の表に先立ち行かう。終り

三月三十一日 曇り 当番 菅野栗太郎

一、午前五時起床点呼、一、〃五時三十分武道掃除、一、〃七時より日本運動礼拝食事、一、〃九時三十分清水先生講話、一、十二時昼食、一、午後一時四十分〃三時清水先生講話、一、〃三時参拾分〃五時剣道石山先生、一、〃六時夕食、一、〃七時より自習、一、〃九時礼拝

所感

五時起床して太鼓を打つ。その響殷々として六合に漲り、世のあらゆるものを呼び覚ます感がある。寂寞なる寮の夢も一瞬の間に覚まされた。今日一日寮生四十を提げて邁進するのだ。己が受持を通して世の中を提げ追ひ進まんとする重大なる債〔責〕任を持つた。やまとばたらきのリーダーとして壇上にあがった。自信を持つて上つたなれど、いざやつて見れば思ふ存分出来なかつた。自分は今何を云つたかさへも忘れる位であつた。思ふ存分歌つた。日本魂の理想信念を提げ、世界の表に先立ち行かんとする感があつた。之我等若人の貴き使命である。明き清き秀麗の国に生れた我等よ、直き誠を高天原へといざ進み行かふ。

四月一日 金曜日 曇り 当番者 佐藤廣弥

午前五時起床点呼、五時半甲班掃除乙班武道七時迄、七時皇国運動礼拝、七時五拾分朝食、九時農学大意高橋先生、十一時稲作研究佐藤先生、十二時昼食、午後一時半稲作研究佐藤先生、午后四時ヨリ大掃除、今日ヨリ火鉢撤廢致す、六時夕食、七時自習、四班ヨリ風呂ニ入ル、九時礼拝

所感

今日は第二回目事務室当番□……一回目よりは余程よく果されるだらうと自信を持ちつゝ实地に当つて見るとまるで気が付かず、ほんとに我ながら恥かしかつた。朝の皇国運動□……今思ひ出しても冷汗が出ます。又冷汗三斗とはあの時の様なものかと思ひました。この次からは下腹にうんと力を入れ、天晴れ、をけの精神を持つてしつかりやります。

四月二日 土曜日 晴 当番者 古瀬吉三

一、午前五時起床点呼、一、五時半武道掃除、一、七時皇国運動、一、七時四十分朝食、一、八時五拾分所長先生皇国精神、一、十時二十分清水先生農業経営の話、一、十二時昼食ジャム、一、午後一時三十分清水先生 〃 〃 〃、一、五時二十分終り

所感

僕は事務室当番は二回だが、まだ果してはいないとつくづく感じた。然し僕は修養になつた。色々の御客さんと!!せし且又話を聞き中に成生村の青年が所長先生との話は実に感じた。又大和働のリーダーとして私は冷たいあせが流れた今日の事務室とうばんはなかなか修養になりました!! 以上

四月三日 日曜 相田栄助

午前六時起床点呼、午前六時半全員掃除、午前七時半皇国運動、午前八時半朝食、十二時昼食、午後五時半夕食、午後九時礼拝

所感

今日ほど寮生活中冷汗を流した事はありません。それは皇国運動のリーダーとして壇に上つた時でした。自分はよほど練習したつもりでしたが、壇上に立つた時、何が何んだかはからなくなりました。終りに高橋先生より間がぬけて居ると云れました。ほんとに自分の不覚の点を反省しました。今後間ぬけづ努力する覚悟であります。

四月四日 月曜日 晴 八時半頃より雨

起床五時、第一校時、第二校時、清水先生の農業経営の御話、第三校時、第四校時、赤間先生の教練

所感

自分は清水先生はもう少し若いと思つてみました。それは農場の御写真を見せいだと思ふ。併し先生は思つたより年を取つてをりました。自分は清水先生の御話を聞いて吾が村の欠点があつきりとわかりました。それで自分は吾が農村に帰つたなら先づ吾が身をおさめ、其の欠点を増に美化せんと心得へてをります。以上

四月五日 火曜日 曇り 大沼清八

午前五時起床、五時半甲班武道乙班掃除、〓七時皇国運動、七時半礼拝食事、〓九時

より十一時まで清水先生講話昼食、午后一時半より五時まで五十嵐先生郷土史講話、
 五時半夕食後遺骨を迎へ、八時半より茶話会、十一時礼拝

所感

自治寮生活もかぞえ日となりました。心も浮き立つ様な暖なる春となり、梅も近く淋しい姿となり、又桜の世となるであらう。総べては次ぎ次ぎと移り行く現在である。吾等も又清水先生を中心に茶話会を催された。今夜は只先生達のナンセンスにて夜を更けてしまふた。今日は霞城健児の四勇士の遺骨お迎へすべく、吾等は夕食後山形駅へと出発した。駅前の広場、各団体にて埋めて居た慰霊の列車は午后六時半到着した。夕空を貫らぬく砲音、広場は縮張した気分がみなぎつて居る。壮麗なる音楽隊を先頭に四勇士の遺骨は花環に取り巻かれて聯隊と向つた。吾等も宮門前で参列した。何んと壮烈なものであらう。言葉にも筆にも現す事のできぬ感じが胸を突くのである。彼等勇士の魂は永遠にかざられるのであらう。吾等も人生と生れて、しかも男子で在る以上は少くなくとも彼等勇士の様な最期をとげたいものと思ふ。年若くして終るとも彼等の偉勲は永久に祭られるのである。勇士の親兄弟を思時、又国家の為に犠牲となつた慰霊には心から平伏するのである。空は何んなく雲低くたれ何時しか涙だ新らた成るを覺えたり。以上

四月六日 水曜日 曇風 川合恒五郎

午前六時起床、甲乙班共掃除、七時ヨリ皇国運動、七時半ヨリ礼拝食事、八時四十分ヨリ正午迄霞城聯隊ニ於ケル慰霊祭及ビ満州事変ニヨル戦利品ヲ陳列場デ見学、午后一時半ヨリ四時三十分迄横田先生ノ産業組合ノ簿記学、四時三十分ヨリ定期大掃除、六時半迄、七時三十分ヨリ九時迄自習、九時礼拝

所感

私ハ事務室当番ノ大役ヲ仰付ツテ途方ニクレタ。余リ油断ヲシテ皇国運動ヲ覺エテイナカツタ。アキラメナガラモ苦シイノ一言デツキテキル。然シ今迄約一ヶ月余、自習時間ハ殆ド畜産学ノ筆記ニ没頭シタカラ仕方ガナカツタ。茲ニ思ヒ浮ブノハ桂公ノ言葉デ、己レノ地位ニ安ズル事勿レ。是ガ桂公自身ノ成功ノ秘訣デアルト云フ事ガアル。自治寮生活ノ言葉ニモ追進ノ言葉ガアリ、事々物々ニワキテノ修業ハ全ク尊イ体験ヲ与ヘテクレマシタ。失敗ハ成功ノ基、愈益精進スル事ニ覚悟ヲキメタ。霞城聯隊ノ慰霊祭ハ昨夜駅頭ニ御迎シタ。崇巖キハミナキ場面ト変リナク、全ク感激ニ欺エナカツ

夕。式ノ真最中烈風激シク寒サ身ニ沁ミ、満州ヲ思ハシメル事深ク勇士ノ奮闘万人ノ心ヲ泣カシメタニサウイナイ。ソレニツイデ陳列場ノ戦利品、便衣隊其他ノ国民ノ用ヒテキル着物ヤ武器、ホントニ珍シイ参考ニナル物ガ沢山アツタ。只武器ニ於テハ全ク御話ニナラナイ程不揃デアルコトニハ驚カサレタ。

四月七日 木曜日 晴 当番 古川森弥

午前五時起床、五時半甲班武道乙班掃除、七時皇国運動、七時半礼拝後朝食、九時より十時まで所長先生の講義、十時より十二時まで農学大意、十二時昼食、一時半より三時まで農学大意、三時半より五時まで柔剣道、五時半夕食、七時より自習、九時礼拝。

所感

余は皇国運動のリーダーを立派にやらうと思ひ、腕を鳴らし待ちこがれて居つたのにやること出来なかつたことは実に惜しい……。余、勅語奉読の際みたま静めして奉読しやうと思ひやりして何んとなく落つかず、つい所長殿より注意されたり。余の過去を省り見るにスタートは余り強く終りて弱つて居る様に思はれる。今後充分気を付けてやらう。

四月八日 金曜日 晴天 当番者 小野功

午前五時起床、同点呼、乙班武道甲班掃除、六時半より皇国運動、後礼拝、同朝食、九時半より一講時農学大意、十時半より十二時迄地質学、十二時昼食、午后より二時四十分より岩石地質研究の爲め盃山附近川原へ、五時半夕食、七時より自習時間、九時礼拝、同寢床

所感

天晴れ、僕は今日の当番者のリーダーとなり、日本動〔働〕をやりました。僕に対しては先生は何事の僕の悪い処を注意の教を下さらなかつた。私はリーダーの身を考へ見ればそんなに軽々に来るものではありません。私し心中には一つ今日こそはの覚悟十分定めて居りました。又午后よりは地質及び岩石実研究の爲めに、盃山附近川原に於て安崎先生より種々岩石の実状□聞き習い、実地に於てのお話は僕のわからず頭の中にも少しは憶える処があります。古言如く、一見は百□に聞ざるも本当です。一□のこの事も話の種でせう。以上。

四月九日 土曜日 曇 当番者 長谷部十右衛門

午前五時起床人員点呼、五時半より甲班武道乙班寮掃除、七時より皇国運動、七時半礼拝朝食、八時より穀物検査所へ、九時十五分より穀物検査所の樋口先生の話、十一時半昼食、午後十二時より二時迄米の鑑定、三時より自習、五時半夕食、九時礼拝所感

今日は第一回目の当番よりは良かった。勅語奉読の事き〔如き〕は場所に立つて見るとぶるぶるとふるいてあつたが、今日はふるへなかつた。尚奉読が早いかつたので高橋先生より注意したので、今後奉読する時の参考となつた。又今日の穀物検査所の樋口先生の話は途中にておこられてあつたが、新聞を見る時や家に帰つて話を聞く時の午後の米鑑定も参考になつた。完

四月十日 雨後晴 日曜日 当番者 高橋勇士

本日行事午前六時起床、人員点呼、全六時半より全員ノ掃除、全七時半より皇国運動、全八時礼拝、全八時四十分朝食、全十二時昼食、午后五時夕食、全五時半第一小学校の映画会に出席三十三名、不参十九名、全 時礼拝就寝

所感

日誌張を繰つて見ると中々思ひ思ひの達筆を奮うて既に私の書かんと思つて居つた事が洩れなく記載されて居る。だが所感といふ処からぼつりぼつりあつちこつち事々物々に就いてだけの修養故、前後左右滅茶苦茶の点は十分胸の中で解禁をお願いして戴きます。今日事務室当番に引口つた……実は入所以来既に二ヶ月有余、残りは僅かにして寮生活も終るので。其の間此の役目を一回で誤魔化さうと思つて居たんだが、人々の二回位づゝするのに自分のみ一回とは良心に恥入つて居つた所、いくら口と一心同体になつたからとて肝心の心掛は忘れたのではない。先ずは其の恥かしい様なのだ。人中には余り出た事のない私は大衆を前にするとすぐ赤面するのが私の通常だ。天晴れの心がないといふ理由、……で今日当番になつたのは我身にとりては幸悦至極に存するのである。さうです。入所以来斯様な事も遂行出来なくては其の精神に反いて居るのです。でも夕ふべ宣言みたいに命令せられましてから心身がぎゆうと引絞つて来た事だけは確かであります。先ず朝起きるにしてもリダーとなる者がオクレダーになつてはならじと随分早く目が覚める、何の不思議もない、天候は如何と窺ふ。相

にく雨降り、春雨には元気の良い降り方、曇天でしかも朝の行事旨味く行かないと一日中何くれと晴やかになれない。況んや其のリダーたる者、四十名かの心に斯様なことでは相済まん。……禊……。一人ばかりやるのは何んだか嫌だ。ブラシを咬えて様子如何と見ると益々嫌な気持、此の着物ぬぐ時位ひつらいのはありやしない。俺のみだらう哉。……時は過ぎ行く、何くそエッヤツと伊邪の意気ザブリザブリ、あとは何んの心もない……。とは人々のやる所の通り。着物をきる。今度こそ以前とは違つて一番先の禊の味は格別である。此の瞬間のすがすがしい気が一日中あつたならと希つて居るのだけれども、……此の時の禊の意気、こゝが大切な所であらう。これが永遠の我ら先祖代々の修養の遺伝の効果である」。事実我らの生活は朝起きる時より理窟より事実が先に始まる。如何な尊き理論も実行には講はない。朝起きに三毛の徳あり」と古諺にあるが、私は三毛どころはあるか、方法に依つては甚大な徳となり、此の積り積つてこそ、他日大いに力になる時が来る筈です。時日が経つにつれて此の禊の精神も分る様になりました。大概に言へば悪穢を去るに在り。是がお互ひの心の中に輝いて居る所の美しい所を尚亦益々美化せんとする所あり。故に悪戯も徒に卑〔禪〕益のものではなく、理想の力次第にて反つて之が必要の材料となる。」と之が大和民族の雄大な所であると「何んだか描写臭くなつたけれども、私は今日迄反省反省と言はれませんが、真の反省なるものが分つて来た様子です。……思ひ切り良く太鼓を打つ静かな眠りにある寮も一撲の下にざはめいて来た。此の時より午后九時迄がリダーとしての責務が負ひ来つたのだ。週番君の掃除して下さるのも有難い。何事でも早く了えて次ぎ次ぎの仕事を待つ位でなくては之又工合が悪いものだ。皇国運動もどうもみたましずめが落ちつかない。ウン、……無我夢中……。終りには何をやつたのが呆ツとしてしまつた程であつた。斯く熱烈その反対、冷静になつた時の我には感謝の念が湧く。斯様にして万物に対しての現実の世界と行つたならば……。輝かし物の生ずる根源となるのか。勅語奉読……。礼拝……。毎日行つて居るけれども、其の内容の一ツにも奉体〔奉戴〕せんければならぬだか、どうも凡人でその仕様がなない。客人に接するにも明るき清き正しき直き心を以つて応対する所に親切が生ずる。私等が鶏を飼つて居つてもそのうである。私としては熱烈にやつては居るのだけれども、牡の方は如何なる心理状態になるかは知らぬけれども、親切にしてやればやるほど敵対視して時折ケケケケコとやらかす。余り結構でもない。後からかゝつて来るのだから困る。未だ親切が足らぬのか、又人間と霊長以下のものが違ふのか、真と偽との世界はあるが鶏にはない

様だ。過日私ら飼育者に所長先生から御質問にあつた時、即答出来なかつた所から見ると、人間たる私の方が悪い様だ。清水先生の御話に在りし通り、真に親切になれば人語を解せぬ動植物とも談合する事が出来ると、私もこのことについては大いに感ずる所があつた。この信念を以つてせば鶏の牡も温純〔順〕になりぬべしだ。時後鶏連も飼主が様子が少し變つて来たナアと思ふなん。横道だが私も農作物栽培改良界の杉山翁に二ヶ年ばかり実施指導を受けた事があつた。老先生は私等の生育せし稲苗なんかは一寸見たゞけで土、肥、手入等は如何にやつたかは即答には驚いたものだつた。東京辺の人が山中の奥みみたいな僻村状況を先見の明を以つての話、老先生も斯くなるまでには一朝一夕のものではなく、実に四十有年間の独占的経験の賜であつた。今は植物とは談合する事も出来るとの事、之等も一笑に附すべきものでない。此の信念あれば我ら農民も何時如何なる万難迫るとも恐るゝに足らずなり。……時計も眠むさうに聞える静寂な街頭には人途断え、たゞ遠く遅れ人の下駄のカラコロとするのみ。今日の分担は了えた。……時は只呆然とす。其の次に起り来る心は本日ありし事々物々が又修養の根源となるのだ。……終りに當つてもう一言申述べたい。それはこの誌上にも幾多熱誠な叫びが□の現となて載せられたのを見ても胸は高鳴る。が私は此の自治寮生活残すところ僅か十日そこそことなつた時に当り、もう一息つけ之で実行を叫びたいのです。それはと去る二月二日に起つた事実の爆弾三勇士です。其昔蒙古の襲来としての地名もなき一貧家に生れた彼等三名の士は、雄々しくも上海附近の鉄条網破壊には爆弾を抱いた俣鉄条網破壊と突込み、自分諸共鉄条網は破壊した。嗚呼自分諸共死を以つて護国の鬼となれる三勇士の壮図や、今や全国津々浦々迄うたはれて居る。真に彼等は軍隊としても下級な……社会的にも低〔程〕度の低い、とるにも足らぬ無名の三士に依つて一度君国の為、一身を抛つて、人の為す能はざることを現実に言えば、幾十万幾千万の人々の心に奥く銘じたことだらう。実行は強い、名もなき青年の行いでも死を賭しての実行には何物を以つても動かなかつた。近代の腐れ切つた人心に一脈の正気を注射した。嗚呼、これぞ我らが祖先からの大和魂は流れておる。如何な教育者の赤化の芽生えも恐るゝに足らず、斯してこゝに此の尊き犠牲者も都会より出でず、皇国の為には骨も肉も木端微塵になるほどの真の勇士は百姓であると活きた証拠が挙げた。何んと心強い話ではないか。斯して亦霞城健児を送る時にこそ。（終り）二五九三、四一〇

〔四月十一日 月曜日〕当番者 金澤孫治

本日行事、午前五時起床、太鼓を打つ点呼、午前五時半より乙班武道甲班掃除、午前七時より皇国運動、午前七時半より礼拝、午前八時朝食、午前八時半より所長先生の皇国精神と農業、午前十時より霞城聯隊壮行祭に望む。午後二時昼食、〃 〃 三時柔剣道、〃 〃 五時終業、〃 〃 八時半礼拝就寝。

所感

自治寮生活も余す処来週一はい位であろう。最後の事務室当番と思つて皇国運動こそと意気込んで段上に上るや、自分にお互の眠が輝いた。始めておる中に到々時何上つてしまつた。あ、と思つた。之れは自分の精神修養積れた結果であると反省致しました。

一寸した簡単な事でも間違ふな精神では世の荒波に漕ぎ分けていけるかと反省致した。而し成功は失敗の元だと意気込んだ。

あゝ春と共に県民に再々戦争の気分は激烈〔烈〕にあふれた。日本の生命線たる満蒙の天地に活動して居る。戦争は未だ納まる事なく、待ちに待ちたる霞城聯隊に出動命令下り、明日出発に際、壮行祭を行い実に勇ましい姿で天晴れの精神を見せ付けられて県民は大いに喜び代表者訓示致し、事〔殊〕に知事さん最後の聯隊長之声は宮内に高く聞える、熱心さを此の一言の元に明日懐しい故郷後に残し大和民族の理想実現に迎ふでしょう。

四月拾弐日 雨天 当番 庄司治郎

午前五時定時の太鼓を打つ、同時に起床点呼を受く。五時二十分掃除の始めの貝を吹く。五時参拾五分校庭集合の合図貝をふく。霞城聯隊出征兵観〔歓〕送すべく高橋先生の指導のもとに出懸けり。帰校したのは午前七時四十分でした。皇国運動武道休み午前第一校次高橋先生の講義肥料学、第二校次郷土史午后一時半、赤間先生救急法並銃剣術、午後六時半夕食、七時自習始めの合図貝をふき、九時礼拝。

所感

昨日の礼拝の時に週番より事ム室当番に指名された自分も、自治寮生活中の事ム室当番も此の度で終りだと思ふと、なんとなく悲しい様な感がありました。

今日は朝より雨降りだ。然し名誉ある霞城聯隊の出征兵の観〔歓〕送する時には雨が降なかつたのだ。聯隊旗を先頭に、六百余名の勇者靴音高く三十二聯隊を提げ、追進む

代表者へ吾等は弥栄……を送った。健康長久を祈った。若き軍人よ大いに活動あらん事……。吾等も亦各自の分担を提げ追進する。そして益々我が国の弥栄にしよう、共々……おけ。

四月十三日 天気 曇 当番者 犬飼訪吉

本日の行事

五時起床今日は甲班掃除乙班武道、一校時習字、二校時地史学、午後一校時産業組合の簿記学、二校時剣道、尚夕食後寮歌練習あり。其の他の行事例日と同じ。

自治寮生活も余す事十日となり、僕の自〔事〕務室当番も今回は二回目であり、最後であると思ふと、何んとも言へない感に打たれ、今日こそはと思ひて朝早く起き禊をして太鼓を打ち一同を起した。行事は順々と進み、七時二十分日本体操をすべく、自分は段上に上った。しばしの間みたましずめをして初めた。其の後自分は出来得る限りの力を尽くして行つた。其の為か二度ばかり須藤君より教えていたゞいた。其の後事務室に居つてもまだまだ自分の到らない事を深く感じました。

四月十四日 木曜日 快晴 当番者 舟山正悦

起床五時人員点呼、六時半より甲班武道乙班掃除、七時十分日本体操、七時四十五分礼拝、八時朝食、一校時八時半より金井村研究、二校時十時十五分より農学大意、農場の分担有り、十二時半昼食后室の大掃除、一時四十分より煙草専売局見学、四時半ヨリ大掃除、九時就床。

所感

前回の事務室当番の時ハマと寝忘れ、今回こそは真先に起き様と神に祈りて床に付く案の条〔定〕四時ふと目が醒めた。直ぐ様浴場に行つて見れば唯〔誰〕れ一人として起きた様子もない。一人で禊をするのがなんだかいやな感がする。而して家にかへつたらいつも一人で有るんだ。こんな事でよくよしてはとさんぶとばかりかぶる。直後の気分なんとなく天晴れだ。之の気分で一日のリダーとして立つて見たいものがある。たちまちぼんやりしてくる。我れにとつて最も有意義な日は次第に展開されていく。遠くの山も春もやにかすめられている。たゞぼんやりして種々の雑感にうたれているうち、五時のタイムは音高く耳にしむ。早速バチを固く握りしめて満心の力をこめて打つ。一声諸共寮内全部の静けさは破られた。鳴〔鳴〕僕の力をこめた一撃に

依つて全部が目醒たので有ると思ふ時、実に愉快でたまらなかつた。たちまちにしてざわめいた。それぞれ分担に付く。今日は自治寮のリーダーで有る。その現れが朝の日本体操で有るのだ。事ム室当番も本日限りで有ると思ふ時、殊更感激にうたれた。力の続く限りリーダーとして動かうと思つてだん上に立てば何んだかはげしい様だ。人の前に立ちてリーダーをするのが僕に取つては初めての試みで有る。誠に人の前に立つとおきせる性格を有するので、前々から心配でならなかつた。而、一端立つて見れば差程でもない。おきせると云ふのも之れ皆自己に実力がないからで有る事思ふ。初めて見れば何んだか思ふ様にはいかん。一寸と下を見おろせば一心に注目してやつている僕が一寸でも間ちがつたなら全部躊躇するので有ると思ふ時にポツとあつくなくなつて来た。これ程リーダーたるものは非重「常」なる重任で有るもので有る事はつくづくと感じた。とも角ベストを尽した勘定で有つたが、うまく行かず終つてしまつた。汗も少しく出た。これは多分ベストを尽したからでなく、余りあせつたからだと思ふ。ともあれ其の後はブーツとして安心した気分になつた。総て何事をするにも之の如く有りたものである。何事をするにも個人のみを考へず常に自己は重任有る事を反省して何事にもあたらなければならんと思ふた。「うでふしの続く限り働かん、およばぬ事は神にまかせて」……総て一心に働くのが我等農民理想実現で有るのだ。又一大義務で有るのだ。希望多き春は訪れて来た。この時こそ大いに我等はがんばらなければならん時なのだ。ただ春だ春だ等と平々凡々とすごしたんでは神にも先祖に対しても甚だ申訳のない事で有る。理想に進め理想に生きよ……。時は急速に流れている。僕が農村の一隅に声を上げてより二十年、現在迄どうして暮して来たので有らうと今日に限つて殊更深く感じさせられた。かへり見れば人生の三分一はたゞ無意識にすごしたと思ふ時、今后事が心配でたまらない。たゞ気があせつて来るばかりで有る。而し我等現在自己健説「建設」時代だ。今后多いにがんばり理想を目ざして進まふ。

午后より煙草専売局見学に行く。入るや否や先づその規模の大なる事に驚ろかされてしまつた。内に入るにしたがつて其の設備の完備せる事、又総ての機械が巧沙「妙」に出来ている。世界文明の進歩していること、事に非常に感動せしめられた。毎日毎日幾百人の手で何百貫々勿と云ふ非常なる勢いで製産しているにもかゝらずほとんど民間に消耗されている。これは少しく感へねばならん事で有らう。山形のみで製造しているのではない。日本到る所に会社を有し、どんどん何万貫と云多大なる製産している。それが何なく煙と化してしまふので有る。何んと云ふ不経済で有るかしれん。

一日儉約したら何程で有ら「らう」。それこそ甚大なるもので有らう。それをもつともつと有意義につかつたら等といろいろの雑感にうたれた。以上

四月拾五日（金曜日）午前曇午后雨 武田元衛

一、起床五時、一、五時十五分より甲乙両班掃除、一、五時三十分、皇国運動、武道にて約式礼拝、一、六時朝食、

一日農事試験場見学

茂木君の引率の許に朝七時試験場着、五分もたたずうち、我等の先生稲作の佐藤先生、白黒頭に赤銅の顔色、金縁眠金〔眼鏡〕の威厳な顔して、お々〔々〕皆早いなど云つて直ぐ案内して下さつた。第一に選種より種子消毒芽出法、苗代整地に使用する農具、苗代の位置に行き苗代等の説明をして下され、種籾播種作業を見学し蔬菜の方に這入つた先生は、武田先生とおつしやる若い先生で、圃場温床を案内して下さり、次は果樹で此の先生も岩田とおつしやる若い先生で、痛快な説明をして下さる先生でした。三〇分程休けいし標本を見学後、安部先生の案内により農産加工所見学、最中、色々の加工品の内トマトケヤップ〔ケチャップ〕を先生の試食をやつて見てくれを受け、皆んな、たべ直後舌を巻いて顔をしがめたのは面白かつた。僕は初食をし、からいのにしかめ体経〔験〕して面白かつた事に奨〔将〕来農事上に得る事大なる物が有つた。諸先生には御親切なる案内熱心なる明細な説明を受けたまはり、生徒一同熱心に且つ嬉を浮べて受けた。

中食

午后一時より場長殿の農事試験場概要の講話、場長殿の都合により、思ふ存分受ける事出来ず〔ず〕残念で有つた。大□先生の緑肥、高橋先生の二毛作の講話。四時三十分頃皆な雨に打たれて駄足で帰所した。時刻の進むに伴ひ降雨ますます激化し声高くと屋根を打ち、夕飯後の事務室は一時せはしい雨声のみ、寂寥を感じた。

実際今朝を思ふと落胆する。今日こそは寮生活最後のリーダーと思ひ一人でに緊張の号令が胸中を廻る。常に寝坊の僕、今日こそはリードにと思ひ禊に出ると、以上早き者五六人「意味有る最後」を残念に思つた。了

四月十六日 土曜日 菅野章

一起床五時、一校内掃事乙組甲班武道、五時半ヨリ七時まで、一日本体操後礼拝朝食。

午前八時四十分学校出発一同金井村見学に行く。金井村字□□に着したる時には五十嵐先生すでにおいでなつておりまして、一同があまりおそかつたのでどうかと御心配になり電話をかけて見ようと思つておりし所でしたと、此の御一言を聞いたる時、約束の時間に後れしばかりに此れ程御心配をかけたと思へば、実に感ずる所がありました。先生の御案内を受け、まず実行組合試作田を見せてもらひ其のつぎに信用購買利用組合等を見て五十嵐清峯先生の宅に参り郷土史の実物品を見せもらひ、亦御説明を受け後茶菓子等を御知相〔馳走〕にあづかり、時間のなき為に一同名残りをのこして出発、金井村役場に参る。中食を致すをして親切なる豆腐しる及茶菓を御知相に相成、其の他色々一覽致し、一時二十分出発、午後からは助役さんが御案内下さる。まず陣場新田に参り、青栄種子圃場見学、其の他果樹園堆肥舎畜舎等養鶏等を見まして、午後四時半頃金井村小学校に着く。校長先生の御案内にて校内を見廻りまして後小学校の教育方針、補習学校、訓練所、青年団、女子会の事に付きてご説明を受け、亦茶其の他菓子を知相に成り、午後六時半頃帰道に付く。御□□に着き夕食を致せし時は八時成。八時より九時まで自由九時礼拝致し床に着く。

所感

県の模範村と表彰されるだけに我れ等の理想とする所を実現致したる理想で有ると思ひました。ゆえに早朝より夕方まで十数時間一々身体にすみこみました。中々ずく感事したのは小学校の教育方針で有り□、先生と生徒は一身同体と成事に小学校卒業後都会に走る農村青年の多いのは小学校の教育方針のまちがひある為なるゆえ、其の点を感じ、すでに小学校におひて農村青年の基（卵）を作るべく努力致しおる其実例としては養鶏養豚事に水田四反三畝により修業致し、其れに運動にては木剣剣道に重きをおいておるとの事成り。亦青年会訓練所、女子会、其の他の団体すべてにおひて村民先生と協力致して従事致しおる事でした。男の先生は各種団体の幹事女教員は女子団体の幹事に成りて活動致しておる事。亦補習学校主任の先生のお話によれば□□がよいのは第一に先生方一同努力致し生徒を来たかひのあるように致しおるゆうとの事、すなわち此れを見てもいかに諸先生方が努力致しおるかは感じさせられました。女子会の如きは農村問題の開史〔始〕は女子会で致すべき成りとの念願にて、努力しておるとの話、其の他色々事有りますが、得に感じ事たる事、以上申し上げます。

四月十七日 日曜日 晴 当番者 西山進

午前六時起床、〃七時掃除礼拝、〃八時朝食。

高橋先生ヨリ岩手行キハ中止シテ置賜行キト変更ナツタ事ヲ報告サル。金井村研究材料ヲ図書室ニ配列スル。以上朝食前に。

所感

又意義アル事務室当番ナリ。然シ今日ハ日曜ナリ、何ンダカ充タサレナイ心ニテ初メノ中ハ居ツタガ、一人腰ヲ下シテ考ヘタ時、自ラ天晴レナル心ニナリ、此ガ自分ト言フ者ニ下サレタ神ノ特別ナル幸福ナル修養ナリト考ヘ、アナサヤケノ心トナリ、自ラ其後ハ面白ク働クコトガ出来タ。ソシテ今日ハ同生等ハ大部分旅行相談ニ家ニ帰リタリ。ソシテ帰所シテ変更ノ事ヲ聞キ、全ク氣ノ毒ニ見エタ。全ク今日ハ空モ心モ晴レ晴レノ中ニ任務ヲ終ス。天晴レ、アナ面白ク、アナ楽シ、アナサヤケ、オケ。完

四月十八日 月曜日 曇 菅運五郎

五時起床、一校時皇国精神と農業、二校時より午後まで赤間先生

所感

最後一週間をして意味ある様に自分の分担に努力奮闘し完全に理想を果し、国の為自分の為目的に追進する積です。一月から今日やつて来たことは作物にたとへば、まだ芽がでてきたかでないかの間にある。私たちは今から時計の針がいくぐくことに勉めみがく積です。終り

四月十九日 火曜 雨曇 当番者 相澤知二

午前五時起床点呼、〃五時―六時半甲班武道乙班掃除、〃七時―皇国運動、〃七時半礼拝朝食、〃八時―拾時皇国精神、〃拾貳時郷土史、午後一時―四時郷土博物館、県庁見学、〃四時―五時剣道、〃七時―九時自習入浴

所感

自治寮最後の事務室当番である。そこに皇国運動のリーダーを初めてやるんだ。充分鎮魂して始めたんだが、不完全なる点が多かった。郷土史の時間、我等東北人は西南地方の人々に圧迫され虐げられ、東北人は一山百文と磯れ居つた事は実に残念だ。東北方の人は常に覚むる事を知らない眠りの上手なことは日本一だ。「朝寝して昼寝して又夕寝して 時々起きて居ねむりをする」。講堂にて居ねむりする我等は実にいたい所だ。何を！と云ふ意気込で我等青年は立つべきである。

午后より教育館内の郷土資料を五十嵐先生の御懇切なる御説明のもとに見学し、その昔をしのびえた。館屋上より市内又遠く村山平野を見わたす時の愉快さ、全く昇天の気に満ちた。帰りに県庁を参観した。集会室、貴賓室等の立派な事、議事堂の盛大な事、然かも同一石材で全部建てられて居る。我々の県庁こそ荘ごんなものだ。剣道は寮生活中石山先生よりお習ひするも今日限りだ。練習終つて「此の切り替しの時の精神は大切だ。何事も考へず、面、面とやる処、此の無念無想の精神を以て処世上の万事に対せよ」との御教訓、肝に銘じた。

四月二十日 水曜日 曇 三浦又男

午前五時起床黙呼、〃五時半ヨリ甲班掃除乙班武道、〃七時二十分ヨリ日本運動、〃七時五十分ヨリ礼拝終へテ朝食、〃九時ヨリ所長先生ノ邦国精神講話、〃十時ヨリ安齊先生ノ地質学講話、午後一時ヨリ横田先生ノ簿記ニツイテノ話、〃四時ヨリ大掃除、七時半終り。スグ夕食七時ヨリ自習入浴、九時ヨリ礼拝。

所感

所感トシテハ何モアリマセン。唯何事モ愉快ニ天晴ノ精神ヲ以テ今日ノ当番ヲ終リマシタ。以上

四月廿一日 木曜日 当番 本田総一

午前五時起床黙呼、〃五時半ヨリ甲班武道乙班掃除、〃七時半皇国運動、朝ノ礼拝、〃八時ヨリ全員シテ寮内及外ノ掃除、〃九時ヨリ所長先生ノ皇国精神、〃十時半ヨリ安部学務部長及ビ社会課長ノ視察ヲ受ケ武道及皇国体操ヲ御目ニカケル。午後一時ヨリ山形地方裁判所見学並ニ傍聴、午後四時ヨリ珠算、六時夕食、七時ヨリ自習、九時礼拝。

所感

入所以来三回目ノ当番、恐ラク自分ハ之ガ自治寮生活最後ダロウ。皇国運動ノリーダーニ立ツ、四十余名ノ前ニ立チ動作ヲ為ス事ハ実ニ難シイ事ダト日頃カラ思ツテオワタ。即チ一挙手一動作ガ……調子ガ早ケレバ精神ノ籠テナイ様ニ、又余リニ緩慢デアレバ規律ガナイ様ニ、各々全体ニ波及ボスカラダ。始メ充分ナル自信ノ下ニ段上立ツタガ、何ト云フテモ最初ノ事ダ。頭ガノボセ上リ熱クナルノヲ何如〔如何〕トモスル事ガ出来ナカツタ。併シ何事モ意氣ガ熱ダト思、夢中トナリ御神勅ノ奉誦終タル時ハ

全身汗デーパイダツタ。此ノ意気込、此ノ勢デヤツテケタラ何事モ出来ナイ事ハナイト思フ。

午前十時半頃ヨリ学務部長、社会課長、面前デノ武道、皇国運動、実ニ吾等ナガラ氣合ガ合致シ上手ク出来タト思ワレタ。建国ノ歌ノ「正大ノ国吾等ガ日本」ノ歌ヲ唱フタ時ハ自分ノ喉ハカレ、身心ハ共ニヘトヘトダツタ。最後ニ学務部長ノ教訓、「現代ノ社会ニ智者、才者ハ沢山デアル。各個〔確固〕タル人生觀社会觀ヲ有スル青年、各個タル信念ニ生キル青年ガ欲シイ……実ニ君等□頼母シイ」等ノ訓辞、吾等ハ実ニ感慨無量、或種ノ予感ガ骨髓ニ響キ渡ツタ。ソシテ吾等ノ責任ハ増々重且大ナル事ガ感じラレタ。午後ヨリ裁判所見学始メテナノデ見ル物珍シガ氣持ノヨイモノデハナカツタ。最後ニ調度ヨク民事裁判ノ傍聴ガ出来タ。金錢貸借上ノ詐欺罪ラシク、随分コミ入ツテオツタノデ、判然トソノ真相ヲ知ル事ガ出来ズ、始メハ緊聴〔張〕シテオツタガ、傍聴席内ノ暖氣ニサソワレ舟ヲヨグ者続出、ハテハ腰掛ヨリ墜落スル等ノナンセンスガ演ジラレタ。以上

四月廿二日 金曜日 晴 当番 遠藤忠雄

午前五時起床点呼、午前五時半より全員掃除、午前六時より七時半まで所長先生御都合によりて武道、皇国運動も止めて皇国精神の学科が有つた。八時朝食、九時半より大高根農場生活に付き注意及決心分担等に御話が有つた。

正后昼食、正后より五時迄で自由、五時より六時半迄置賜短期旅行に先き出ちて五十嵐先生は同地方の歴史に付きて御話し下さいました。旅行者でなく行かぬ我等に得る所が多々あつた。

七時夕食、七時半より自治寮最後茶話会催した。茶話会にこれ迄いちいち御教さつた安済〔齊〕先生、五十嵐先生や鈴木練太郎先生等御臨席下さいまして、いろいろ有益なる御話して下さいました。

所感

自分は常に感じておる事は、朝の礼拝の時は四十余名が只一名が拍手するやうに皆な心の心が揃ふ、掃除其の他の仕事又何事にもこのやう有りたいと思つております。又自分分は茶話会にて歓送発表お〔を〕したが、自分ながらわからぬやうな発表でした。非常修養主食になりました。自分が希望致した養鶏等に有りては親切は最も大切だと思ひます。深々頭に入つて居る親切を持つて養鶏分担に全力を持つて当る決心でおりま

す。

又感想発表のに充分に発表致さうと思つて居りましたが、充分に発表する事の出来得ないことは自分修養は足りないからである。又本日事務室当番も全力を尽したのですが、反省すれば不充分であり、又先生方にも手落等を致して誠に残念に思つております。今後益々修業追進すると決心です。以上

四月二十三日 土曜日 晴 星與衛

午前六時起床点呼、六時半全員掃除、七時皇国運動、八時礼拝朝食、九時半全員皇国運動の写真及び教練の写真をとる、十時半より教練、午後一時半三時半まで教練、四時より五時まで講話、五時半夕食、写真とる、九時礼拝

所感

自治寮生活も二三日きりないので、終りの教練なので、思ふ存分やつた。午後四時より五時までの短い時間ではあつたが、赤間先生の講話が我等の自治寮生活も全く終らんとして居る時に於て大いに感じた。今度の日支事変に於ての美談、我国を思ふ姉と弟、病気の母を置いて満洲に行つたが少したつて母が死んだ。弟が家の事を心配して手紙を出したが、姉は母の死を知らせず弟が御国の為に安心して働ける様な手紙を出してくれた為に、弟は天晴な働をした事を話された。姉の心、弟の努力、これでこそ大和魂を持った日本人だ。自治寮生活も過んとして行た事のない農場を思ひ出して居る時に力強く感じた農場に行つたなら大いに働かう。

四月廿四日 日曜日 自治寮当番 西田貞典

朝六時総員起床、六時半掃除点呼、七時四十五分掃除終り、八時皇国運動初メ、八時半礼拝、勅諭下賜、食後ヨリ自由に聯隊五十週年記念祭に行く。午後十二時昼食、以後自由に明日短期旅行準備、六時夕食、九時前礼拝。以上

所感

自治寮生活最後の起床太鼓なると思へば自ら寮内くまなく響き渡り、且又寮友一同の起床魂も此一声否一瞬間に集合の感あり。正八時より待ちに待ちたる皇国運動開始の一声を放ち出す。而し待ちに待ちたる皇国運動とは云へ一同様口顔の上はまじまじしました。随分間違ひまして、寮友方々にも済みませんでした。而し其の直面した時の心及び終りたる時の心持は、私は尚一層心の底の底の荒魂が湧き出で、少々の修養に

はなつたかと思はれます。あの壇上に於て一番私の精神の落着いたのはみたましづめであつた。時は丁度□生のみたましづめと同様でありました。

食後諸先生一同は聯隊に行き残り人は唯私一人でありました。一番唯一人で恐いのは電話の御用事は一番恐しかつた。幼少頃より電話は掛けた時は、否々見た時さゝなかつた私は、聞き馴れぬ聴音器では到底不可能でありました。而しかかつて来た時は勇氣自信で思ひ切つてやりました。以上

〔以下赤色〕

一、月日（曜）姓名

一、記事 来訪者、事故

一、所感

本所留守日記

六月八日（水）〔ここまで赤色〕曇 高橋勇士

一、来訪者、無

一、行事 五時起床、七時皇国運動、各自分担遂行。

所感

すつかり梅雨気味だ。遠く患の国から押し寄せて来る重々しい雲は一面空を覆つてしまふ。初夏の緑の海とも言ふべき空界に我が者顔の鯉幟も、二三日来の湿雨に参つたと見えて少しも影を見せない。但しこゝに喜んで居る者がある。それは水不足にも関係なく一般に田植にいそしむ農夫である。之は余談として久方振りに寮留守居日記をつける事になつた。何しろ一ヶ月有ばかり残留隊として居残りの古武者だ。朝五時起床、太鼓は近頃臭がしないから、五時起床だけは間違ひない様だ。但しこの様だは保証の限りにあらず。……各自分担、朝中学生外二三名で朝餉の仕方から掃除万端やつて下さるのは実に感謝に堪えない。鶏舎別荘生活者として勿体ない位だ。僕らとしても及ぶ限り育雛に力を注いで居るつもり。一見肉体労働的には楽の様であるかも知れないけれども、寸刻も油断のならないものだ。僅か不注意の為に此の間は飛んだ失敗をした。真事に申わけない。雛を充分愛する事出来ない者の常として我身を仕末する事が出来ないと見えて、一昨日来の寒冷につひ心を緩めて風邪を引いてしまった。理的には総面積の小なる僕は風〔風邪〕を引いたのでなく、風に入ってしまったと考

えて居る。御蔭様で今朝なんかは、七時迄育雛なんぞ念頭に無く、ぐつすりと眠り寝坊をしてしまひ、遠藤君に実に済まない。だが少し考える事も在った。寢床にもぐつてつくづく友の情愛に感じ入った。同君とは別荘生活以来一ヶ月有余も暮した縁あればこそ同じ枕を並べたが、左程情愛を感じずる暇もなかつたが、今回は病魔に犯された者としての心持しての心持、そこには何んの邪念もない。即ち三つ児の魂にかえた時に於て、つくづく考えさせらる。極端に言えば反抗心といふのがなくなるのだらう。僕として風なんぞの工合に思つて居つたが、敵し難く宜敷服従した。遠く異郷の空で誰一人とて身寄らない身にとり、患ひの其の時、友の厚い厚い情愛に悩ぶのである。父母上と呼ぶ能はず、××君と呼んで心良き返事、又何呉れと身の不自由の御世話下され、病者としても義理にも友の憂の目を失させんと立ち見んとすれば、無理するな無理するなと言はれる時なんぞ、實際涙が出る。此の寸句の「無理するな」のうちに力こめた情があるのだ。都会の浮拍子のとは趣が別だ。嗚呼、……此の辛苦共にする友の情心こそ我が寮生活中の一条件に当介まると思ふ。

六月九日 木曜日 曇後晴 遠藤忠雄

行事、起床普通、五時掃除及び炊事、七時皇国運動礼拝、七時朝食、各自分担遂行所感

世は春？等と言ふことはもういつの遠くに過ぎ去り、早や初夏の梅雨期となりぬ。農村に帰れば広々とした水田も米の成ル草で真青となりぬ。又桑園は昼なほ暗やうに桑繁て養蚕は早四眠時となりぬ。日一日農村戦のやうな忙かしさとなる。顧り見、我等残留者となりて寮に届〔留〕まる事、三十有余日となつたが僕等別荘生活者は一日として寮の方に何もせずに也の人に炊事掃除等御願し育雛に尽力しております。実に僕等の食事まで一切して下さる事は実に有難く深謝の致〔至〕りなり。僕等鶏舎日課起〔記〕入して見やう。今朝□りに雛が騒ぐので目覚まして育雛入口に入った直ぐ感じた。あゝ寒い寒いと言ふて居るのだと鳴て居るのだなあと聞取れた。それが至急温度を高めんが為火鉢に火を起してからストブ見たら消て居るで、十二時に起て見た時に適温で有ストブも燃ていたので安心して三時で一眠り思つて寝たのであつたが、雛に起これれば火は消えて居るとは少し油断し過ぎた。練炭火を付直して外に出て見れば、東の山に太陽おそよと言はぬ位に笑つて居る。それが成鶏世話を□一回育雛の方を見て朝餌与へなければなら□、こちらで餌をくれ、あちらでも早くくれ、さいそくされ

る。又何からしたらよいか目の廻るやうだ。第一回の方に餌をやり、第二回到給水し、成鶏に給水掃除餌与へた。それから第二回到餌を与へた。終った終らぬ内に皇国運動だ言れる。何が何やら少も分らぬ。それが終ると直ぐ食とくるが未だ鶏舎の方は十分に行かないので、食事を後にして鶏舎分担を二通おや〔終わ〕した。食事をおやして第二回餌さの準備して居ると、雛はも空腹を訴ふ我を呼ぶ。その愛らしさ。実に嬉しいものなり。第二回給餌もすんだと思へば下敷の敷換とくる。午前中やうやうのことしました。又雛空腹を訴へ我を呼ので、我れよりも早く与へて昼食一時となつた。そのへん片付で二時頃より帰省した。帰省して家に手伝つ、夕方田を廻りて七時帰寮した。それらストブに火を入れるのが一仕事、雛を良く安眠させるのが八時頃でない、温度が定まらないためである。先づ此の分担大体すむ。それか日誌、それ何も仕事がある。それがすむと寝むか、一日として□□がなて寝たことがない。又寝でも熟睡はされない。十二時に起て見はり、それで異常なき時はそれで良か温度が下つたりした。それこそたいへ、いかにねむくとも適温しなければ雛は安眠は出来ない。それで雛にすまない。異常無き時に直ク休む。又三時見はる。これからだ、大切なのは。油断すれば朝七十度以下となる。良ク注意して見る。それで一日の分担をこれで終はる分だけだ。こうして寝起を共にして育てて日一日を成育して行を見るは育雛者の独特興味である。格別興味面白味がある。又常に高橋君僕と雛と間、一身同体なり。常に愛親切を持育雛をやつ居る。一日分担を記入す。

六月十日 金曜日 晴 須貝健次郎

起床五時、各自鶏舎掃除炊事を行ふ。七時皇国運動、夕所長先生始め須藤君、古瀬君、齋藤君、農場より帰らる。齋藤君は病氣との事。九時礼拝就床。以上